

# 電気通信市場の現状について

---

平成28年11月25日

総務省 総合通信基盤局  
電気通信事業部 事業政策課

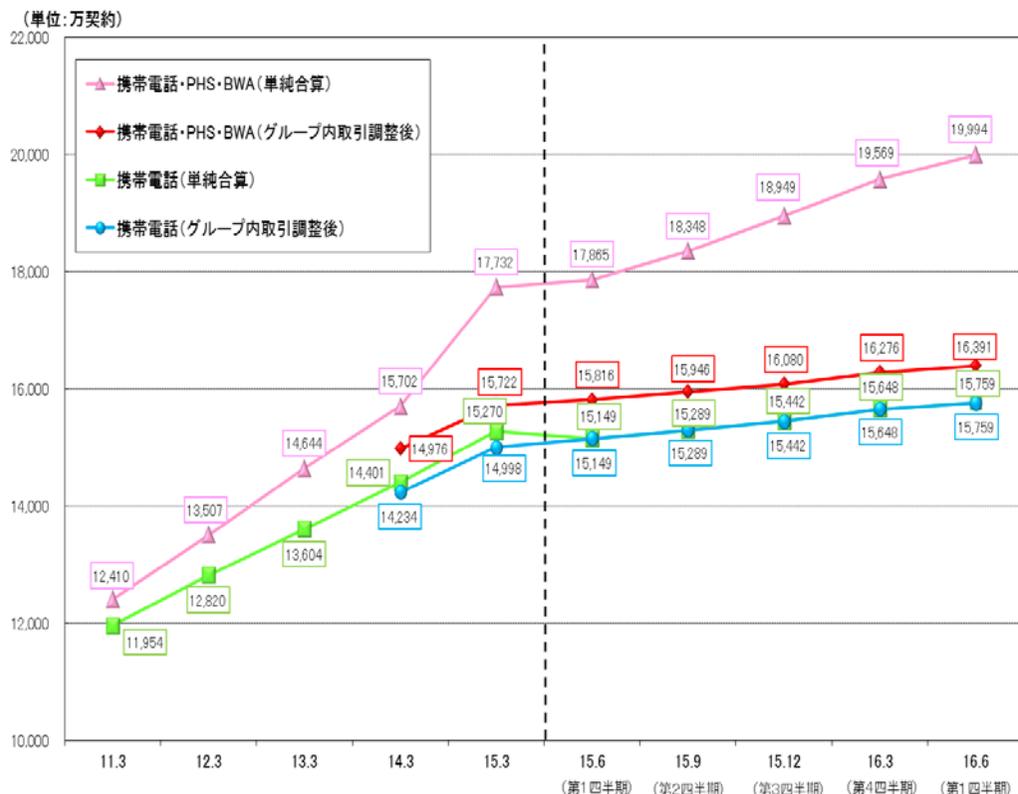
# 1. 移動系通信市場

---

# 移動系通信市場の規模①(契約数)

- **携帯電話の契約数は1億5,759万** (前期比+0.7%、前年同期比+4.0%)、**移動系通信(携帯電話、PHS及びBWA。以下同じ。)の契約数は1億6,391万** (前期比+0.7%、前年同期比+3.6%:単純合算では1億9,994万)と増加している(2016年6月末)。
- **3.9-4世代携帯電話(LTE)の契約数は9,050万** (前期比+3.6%、前年同期比+20.3%)で、携帯電話の契約数に占める割合は**57.4%** (前期比+1.6ポイント、前年同期比+7.8ポイント)と大きく増加している。**BWAの契約数も3,851万** (前期比+9.4%、前年同期比+70.2%)と大きく増加している(2016年6月末)。

### 【移動系通信の契約数の推移】

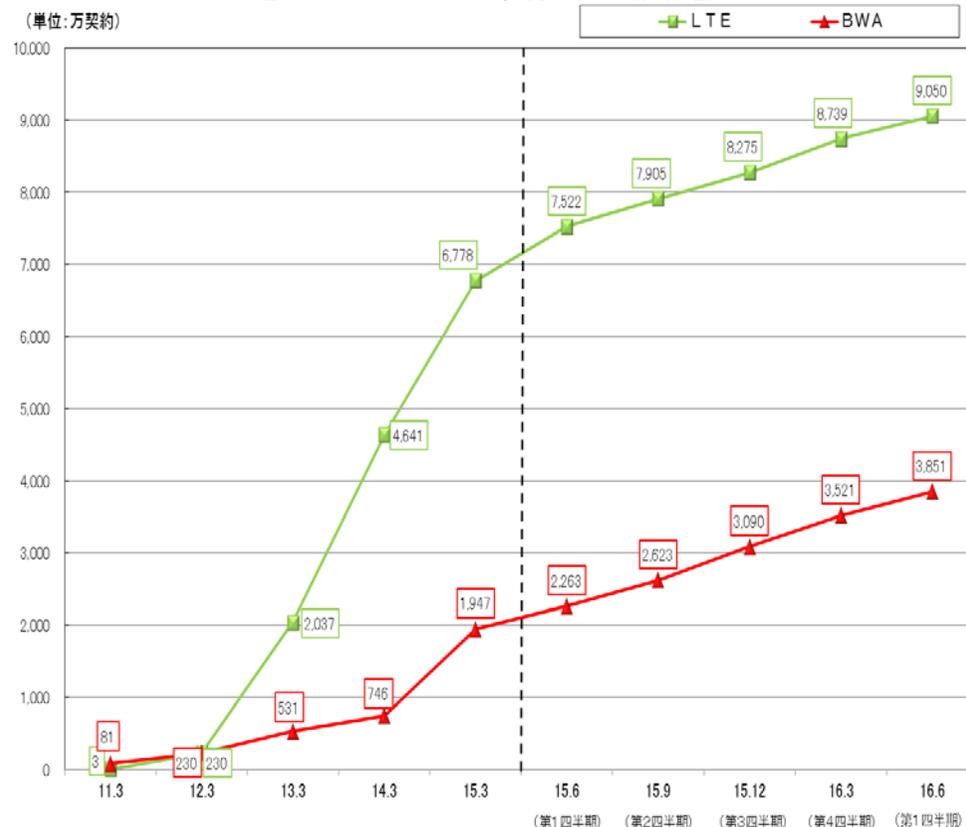


注1:数値は表示単位未満を四捨五入しているため、合計の数値と内訳の計や、図表内の数値から計算される増減率と表示されている増減率等については一致しない場合もある。以下同じ。

注2:携帯電話及び移動系通信の契約数については、特段の記載がない限り、グループ内取引調整後の数値。

注3:2015年度第1四半期以降においては、携帯電話サービス同士の事業者間のグループ内取引がなくなり、携帯電話の契約数については単純合算とグループ内取引調整後の数値は同数となっている。

### 【LTE及びBWAの契約数の推移】

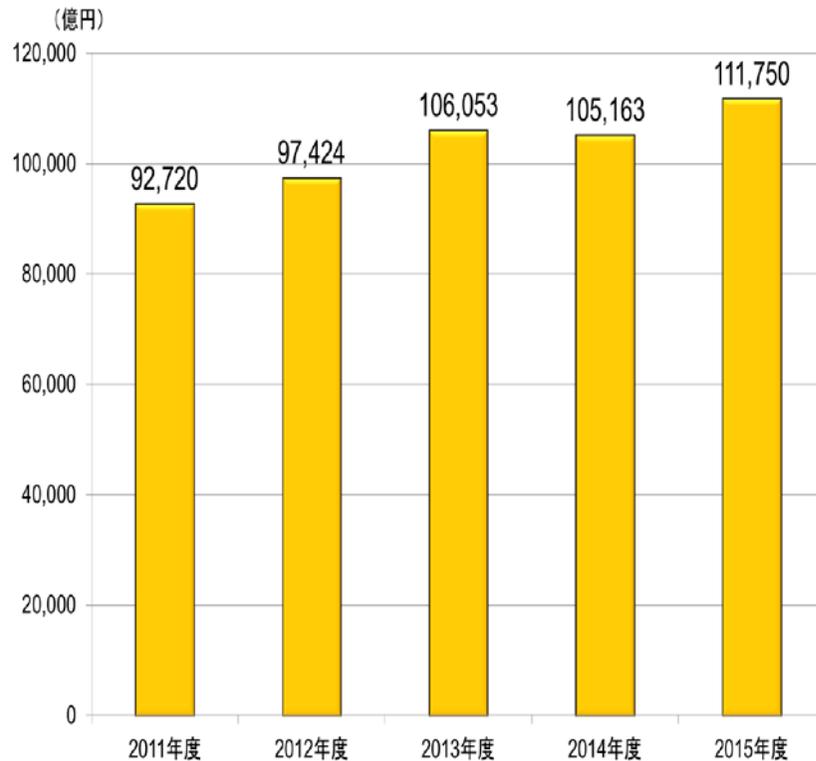


注4:LTEの契約数には、3G及びLTEのどちらも利用可能である携帯電話の契約数が含まれる。

# 移動系通信市場の規模②(売上高等)

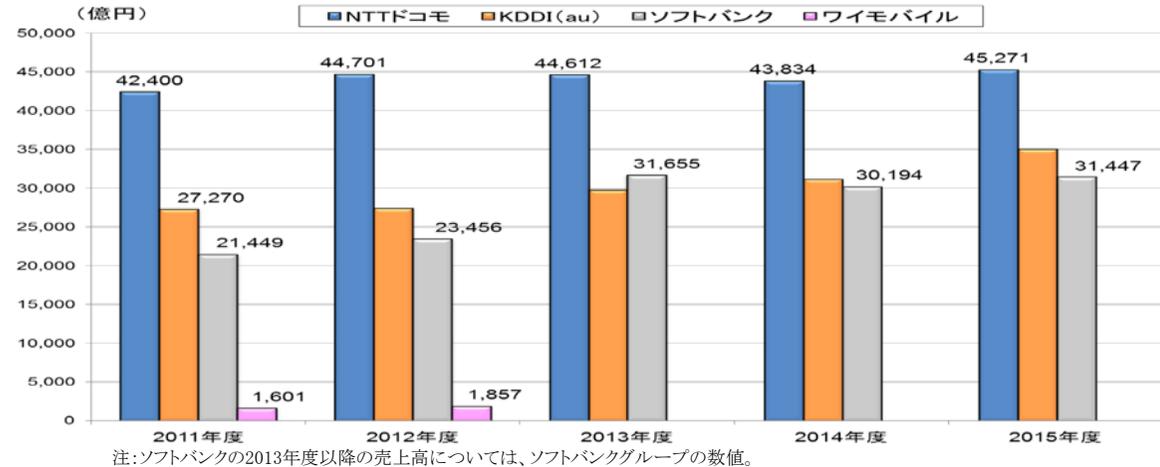
- 移動系通信全体の売上高は11兆1,750億円(前年度比+6.3%)と増加傾向となっている(2015年度)。
- 主要事業者(MNO)の売上高は、NTTドコモが4兆5,271億円(前年度比+3.3%)であり、近年は減少傾向にあったが増加に転じた。ソフトバンクグループは3兆1,447億円(前年度比+4.1%) (2015年度)。
- 主要事業者(MNO)の営業利益は、NTTドコモが7,830億円(前年度比+22.5%)であり、近年は減少傾向にあったが増加に転じた。ソフトバンクグループは6,884億円(前年度比+7.5%)と増加傾向となっている(2015年度)。

### 【移動系通信全体の売上高の推移】

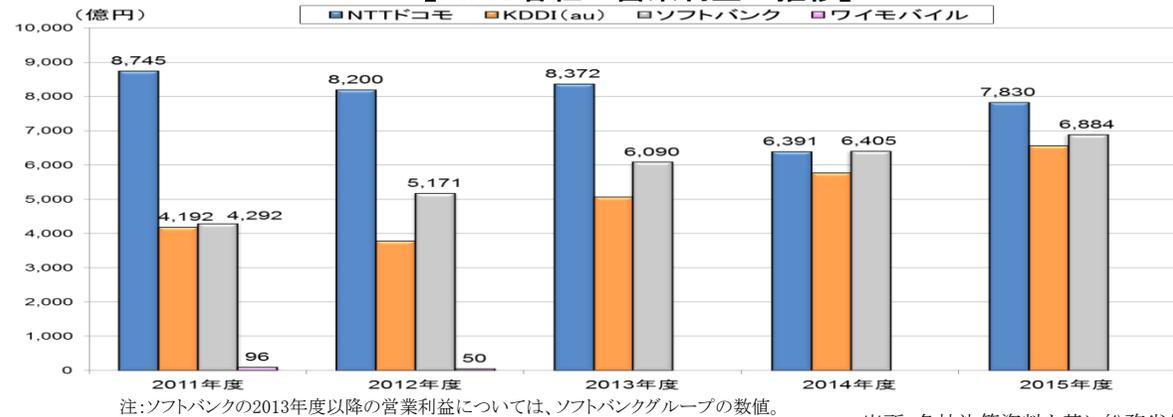


注:各社の決算額等から市場の売上高を算出。ただし、移動系通信事業の売上高を公表していない社については推計値を使用。

### 【MNO各社の売上高の推移】



### 【MNO各社の営業利益の推移】

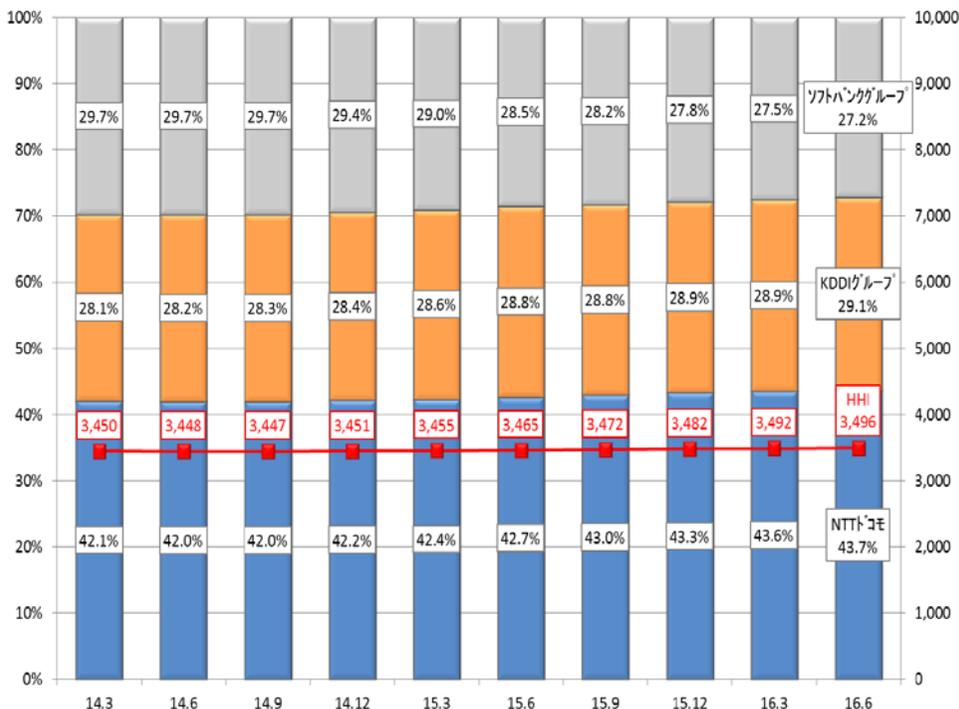


出所:各社決算資料を基に総務省作成

# 移動系通信の契約数における事業者別シェア等

- **移動系通信の契約数における事業者別シェア(グループ別)※**は、NTTドコモが**43.7%**(前期比+0.1ポイント、前年同期比+1.0ポイント)、KDDIグループが**29.1%**(前期比+0.2ポイント、前年同期比+0.3ポイント)、ソフトバンクグループが**27.2%**(前期比▲0.3ポイント、前年同期比▲1.3ポイント)(2016年6月末)。HHIは**3,496**(前期比+4、前年同期比+31)と**微増**となっている。 ※ MVNOへの提供に係るものを含む。
- **NTTドコモ**は契約数シェアのほか、**収益シェア**及び**端末設備シェア**においても**40%を超過**(2015年度)。近年、収益シェア及び端末シェアは減少傾向にあり2位以下の事業者との格差が縮小していたが、**増加に転じた**。

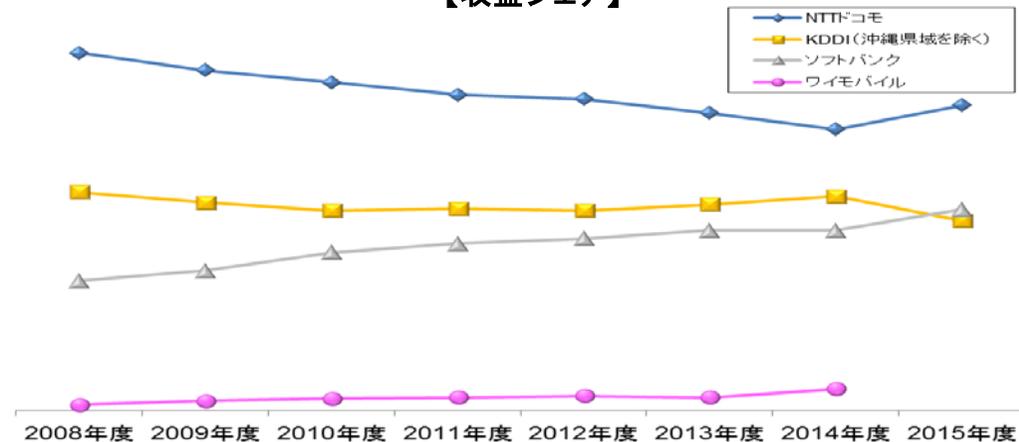
【移動系通信の契約数における事業者別シェア及び市場集中度の推移(グループ別)】  
＜グループ内取引調整後＞



注1:四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合がある。以下同じ。  
注2:KDDIグループのシェアには、KDDI、沖縄セルラー及びUQコミュニケーションズが含まれる。以下同じ。  
注3:ソフトバンクグループのシェアには、ソフトバンク及びWireless City Planningが含まれる。以下同じ。

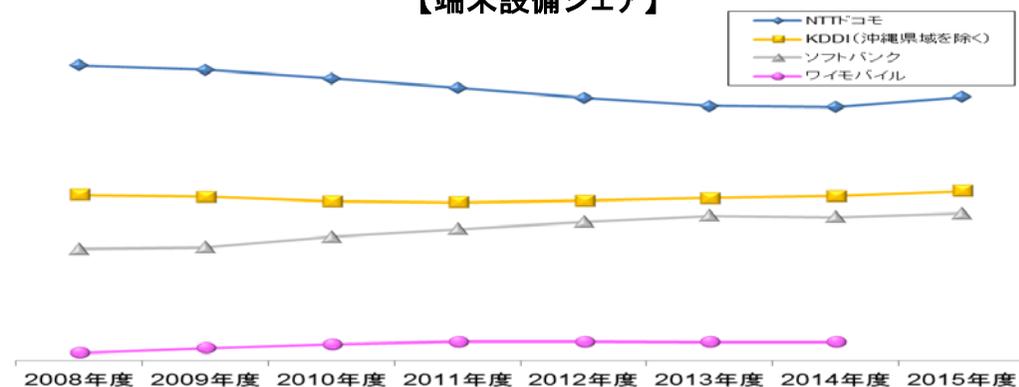
出所:電気通信事業報告規則に基づく報告

【収益シェア】



出所:各社決算資料を基に総務省作成

【端末設備シェア】

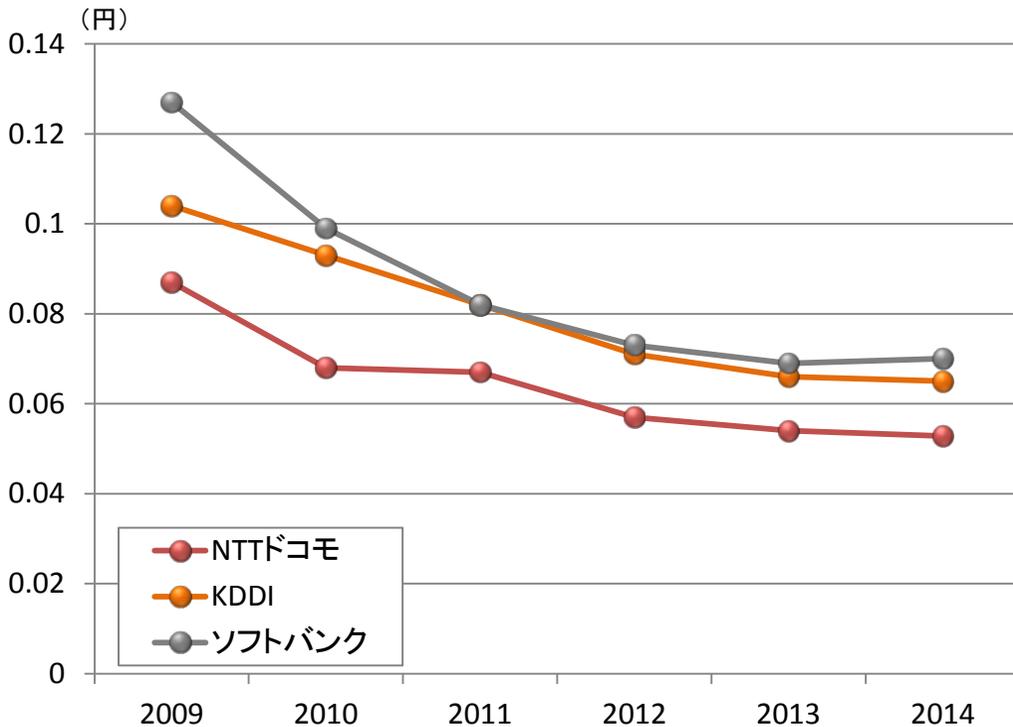


出所:電気通信事業報告規則に基づく報告

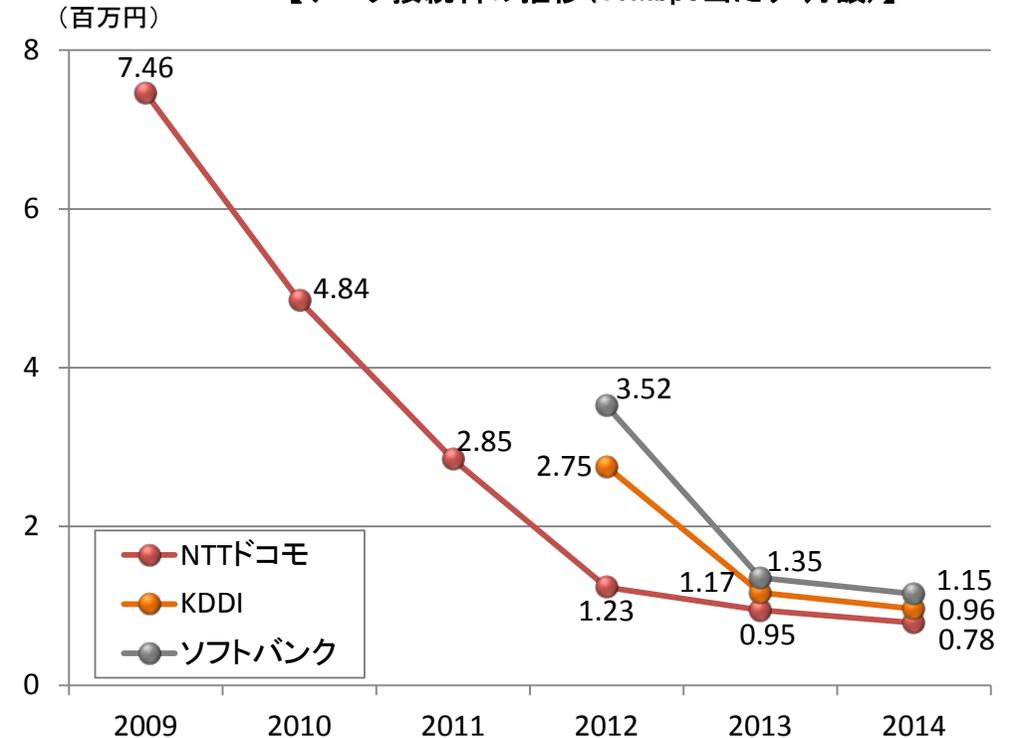
# モバイル接続料の推移

- モバイル接続料は低廉化。特に、データ接続料は5年間で約1/10となっている。
- 一方、第二種指定電気通信設備設置事業者間で接続料に格差があり、2014年度算定期間の最大格差は、音声接続料で約1.3倍、データ接続料で約1.5倍となっている。

### 【音声接続料(区域内)の推移(1秒当たり)】



### 【データ接続料の推移(10Mbps当たり・月額)】



算定期間年度	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014※2
NTTドコモ	0.206	0.199	0.193	0.188	0.183	0.180	0.160	0.135	0.087	0.068	0.067	0.057	0.054	0.052808
KDDI	0.225	0.217	0.209	0.202	0.196	0.191	0.175	0.143	0.104	0.093	0.082	0.071	0.066	0.064
ソフトバンク※1	0.227	0.225	0.221	0.219	0.217	0.215	0.204	0.170	0.127	0.099	0.082	0.073	0.069	0.069

(単位:円)

算定期間年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014※2
NTTドコモ	12,671,760	9,396,038	7,458,418	4,843,632	2,846,478	1,234,911	945,059	784,887
KDDI	-	-	-	-	-	2,751,142	1,166,191	960,541
ソフトバンク	-	-	-	-	-	3,517,286	1,352,562	1,151,355

(単位:円)

注:各算定期間の接続料は、概ね各算定期間の翌年度末に届出がなされ、原則、各算定期間の翌年度期首以降の接続協定に関して遡及精算される。ただし、2013年度以降の算定期間のデータ接続料は各実績年度の翌年度ではなく、当該年度の期首以降の接続協定に関して遡及精算される。従って、2014年度の接続協定は、最終的に、2013年度実績に基づく音声接続料及び2014年度実績に基づくデータ接続料で精算される。

※1 2014年度以降のソフトバンクの音声接続料は、ソフトバンクの旧ソフトバンクモバイル網に係る接続料を記載。

※2 2014年度の接続料は、2016年5月の第二種指定電気通信設備接続料規則施行後の届出値。

# 大手携帯電話事業者とMVNOのスマートフォンの料金比較(例)

## 大手携帯電話事業者

## MVNO(データ+通話プラン)

NTTドコモ、KDDI、ソフトバンク

KDDI、ソフトバンク

ソフトバンク  
(ワイモバイル)

インターネット  
イニシアティブ

ケイ・オプティコム

6,500円/月～

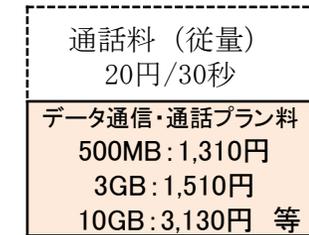
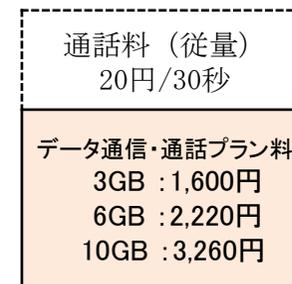
4,900円/月

契約当初2年間の1,000円  
割引を3年目以降の利用者  
にも拡大

2,980円/月～

1,600円/月～  
+通話料

1,310円/月～  
+通話料



2016年4月～

2016年9月～

(税抜。2016年9月末現在)

	大手携帯電話事業者のスマートフォン	MVNOの音声通話対応SIMカード
月額利用料金の平均額 <2015年12月MM総研調べ>	5,407円	1,946円 (2015年3月は2,708円)

(税抜)

# 携帯電話事業者各社のスマートフォンの料金プラン

会社名 (ブランド名)	NTTドコモ		KDDI (au)		ソフトバンク			
					(ソフトバンク)		(ワイモバイル)	
基本料	カケホーダイプラン (2年契約)	カケホーダイ ライトプラン※1 (2年契約)	カケホ (2年契約)	スーパー カケホ※1 (2年契約)	スマ放題 (2年契約)	スマ放題 ライトプラン※1 (2年契約)	スマホプランS/M/L (2年契約)	
	2,700円	1,700円	2,700円	1,700円	2,700円	1,700円	S(1GB):2,980円 M(3GB):3,980円 L(7GB):5,980円	
ネット 接続料	spモード 300円		LTE NET 300円		ウェブ使用料 300円		基本料に含む	
データ 通信料金 ※5	1GB	—	—	2,900円	2,900円		基本料に含む	
	2GB	3,500円	—	3,500円	—	3,500円		
	3GB	—	4,200円		—			
	5GB	5,000円(シェアプランの場合:6,500円※2)		5,000円		5,000円		
	10GB	9,500円※2		—	9,500円※3	—		
	15GB	12,500円※3		—	12,500円※3			
	20GB	6,000円		6,000円		6,000円		
	30GB	8,000円		8,000円		8,000円		
	50GB	16,000円※3		—	16,000円※3			
	100GB	25,000円※3		—	25,000円※3			
追加	1,000円/1GB		550円/0.5GB、1,000円/1GB		550円/0.5GB、1,000円/1GB		500円/0.5GB	
合計	6,500円～ 28,000円	4,500円※4～ 27,000円	6,500円～ 11,000円	4,900円～ 10,000円	5,900円～ 11,000円	4,900円～ 10,000円	2,980円～5,980円	
備考	・14年6月提供開始。 (ライトプランは15年9月、シェアプランの追加は16年3月、 20GB・30GBプラン、50GB・100GBシェアプランは16年9月) ・14年10月から未使用の容量を翌月に繰越可能 ※4 3人家族の場合の1人当たりの料金		・14年8月提供開始。 (プランSは15年9月。1GBプランは16年3月、 20GB・30GBは16年9月) ・未使用容量を家族に融通可能(5GBまでのプラン)。		・14年7月提供開始。 (ライトプランは15年9月。1GBプランは16年4月、 20GB・30GBプラン、50GB・100GBシェアプランは16年9月) ・未使用の容量を翌月に繰越可能。		・14年8月提供開始。 ・他社あての1回当たり10分以内の国内通話が月300回まで可能。	

※1 5分以内の国内通話がかけ放題。5分を超えた場合は20円/30秒。2GBのプランとの組み合わせ不可。 ※2 シェア専用プラン (税抜。2016年10月末現在)  
 ※3 シェア専用プラン (税抜。2016年10月末現在)  
 ※4 3人家族の場合の1人当たりの料金  
 ※5 月間データ利用量が契約容量を超過した場合は、月末まで通信速度が送受信時最大128kbpsに制限される。速度制限の解除にはデータ量の追加購入が必要。 出所: 各社ウェブサイトを基に作成

# 携帯電話各社のライトユーザ向け料金プラン

(月額。税抜)

会社名	NTTドコモ	KDDI (au)	ソフトバンク	(参考:従来より提供) ワイモバイル
基本料	5分以内の国内通話かけ放題 (1,700円)	5分以内の国内通話かけ放題 (1,700円)	5分以内の国内通話かけ放題 (1,700円)	10分以内300回までの 国内通話込み (2,980円)
ネット 接続料	300円	300円	300円	基本料に含む
データ 通信	家族全員で <b>5GB/月</b> (6,500円+500円×子回線数)	<b>1GB/月</b> (2,900円)	<b>1GB/月</b> (2,900円)	<b>1GB/月</b> (基本料に含む)
合計	3人家族の場合 <b>4,500円/人</b>	<b>4,900円</b>	<b>4,900円</b>	<b>2,980円</b>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年3月1日より提供開始</li> <li>・端末によっては、端末購入に伴う月額通信料金割引が他のプランと比べ減額される場合がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年3月23日より提供開始</li> <li>・端末購入に伴う月額通信料金割引の適用なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年4月1日より提供開始</li> <li>・端末購入に伴う月額通信料金割引の適用なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2014年8月1日より提供</li> <li>・端末購入に伴う月額通信料金割引の適用あり</li> </ul>

# 携帯電話各社の新たな大容量データ通信プラン

(月額。税抜)

会社名 (名称)		NTTドコモ (ウルトラパック)	KDDI (スーパーデジラ)	ソフトバンク (ギガモンスター)
データ通信料金	20GB	16,000円 ▶ 6,000円	6,000円	16,000円 ▶ 6,000円
	30GB	22,500円 ▶ 8,000円	8,000円	22,500円 ▶ 8,000円
	50GB	16,000円	—	16,000円
	100GB	25,000円	—	25,000円
データ繰越		○	○	○
データシェア		○ (50GB,100GBのみ)	×	○ (50GB,100GBのみ)
テザリング オプション		1,000円 (2018年3月末まで無料)	1,000円 (2017年4月末まで無料)	1,000円 (2017年4月末まで無料)
提供開始		2016年9月14日 (50GB,100GBは9月23日)	2016年9月15日	2016年9月13日 (プラン変更、50GB,100GBは9月29日)
備考		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年9月13日発表</li> <li>・50GB,100GBはシェア専用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年9月9日発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年9月8日発表 (9月9日、15日一部変更)</li> <li>・50GB,100GBはシェア専用</li> </ul>

(税抜)

会社名	NTTドコモ	KDDI (au)	ソフトバンク	ワイモバイル
内容	① 4年以上利用で ・月100～800円料金割引 (個人) ・月100～2,500円料金割引 (シェア)  ② 2年契約更新で 3,000円分のポイント	① 4年以上利用で ・月40～900円分のポイント ・3ヶ月毎に0.3～2GB データ増量  ② 2年契約更新で 3,000円分のギフト券	① 2年契約更新で ・月200円料金割引 or ・月500円分のポイント  ② 2年契約更新で 3,000円分のポイント	2年以上利用で 月1,000円料金割引
提供開始	2014年6月1日 (2016年6月1日より 内容拡充)	・ポイント、ギフト券: 2016年11月 ・データ増量:2016年9月	2016年12月(予定)	2016年9月
備考	・「ずっとドコモ割コース(2年の期間拘束を更新するコース)」を選択した利用者が対象 ・①は料金プラン・利用年数に応じて設定	①は料金プラン・利用年数に応じて設定	・2年契約(3年目以降の期間拘束がないコースを含む)に加入している利用者が対象 ・200円料金割引は月月割との併用不可	・2年契約に加入している利用者が対象 ・2年目まではスマホプラン割引適用で月1,000円料金割引

会社名 (ブランド名)		インターネット イニシアティブ (IIJmio)		NTT コミュニケーションズ (OCNモバイルone)	ケイ・オプティコム (mineo)	ビッグロープ	U-NEXT (U-mobile)	楽天 (楽天モバイル)
データ通信料金	500MB	—		—	700円	—	—	—
	1GB	—		—	800円	—	—	—
	3GB	900円		1,100円	900円	900円	—※1	900円(3.1GB)
	5GB	—		1,450円	1,580円	—	1,480円	1,450円
	6GB	1,520円		—	—	1,450円	—	—
	10GB	2,560円		2,300円	2,520円	—	—	2,260円
	12GB	—		—	—	2,700円	—	—
	25GB	—		—	—	—	2,380円	—
音声通信 料金	基本料	タイプA 700円	タイプD 700円	700円	Aプラン 610円 Dプラン 700円	700円	500円	700円
	通話料	20円/30秒		20円/30秒	20円/30秒	20円/30秒	20円/30秒	20円/30秒
合計		1,600円～		1,800円～	1,310円～	1,600円～	1,980円※1～	1,600円～

※1 データ通信(3GB)+音声で1,580円のプランも提供。

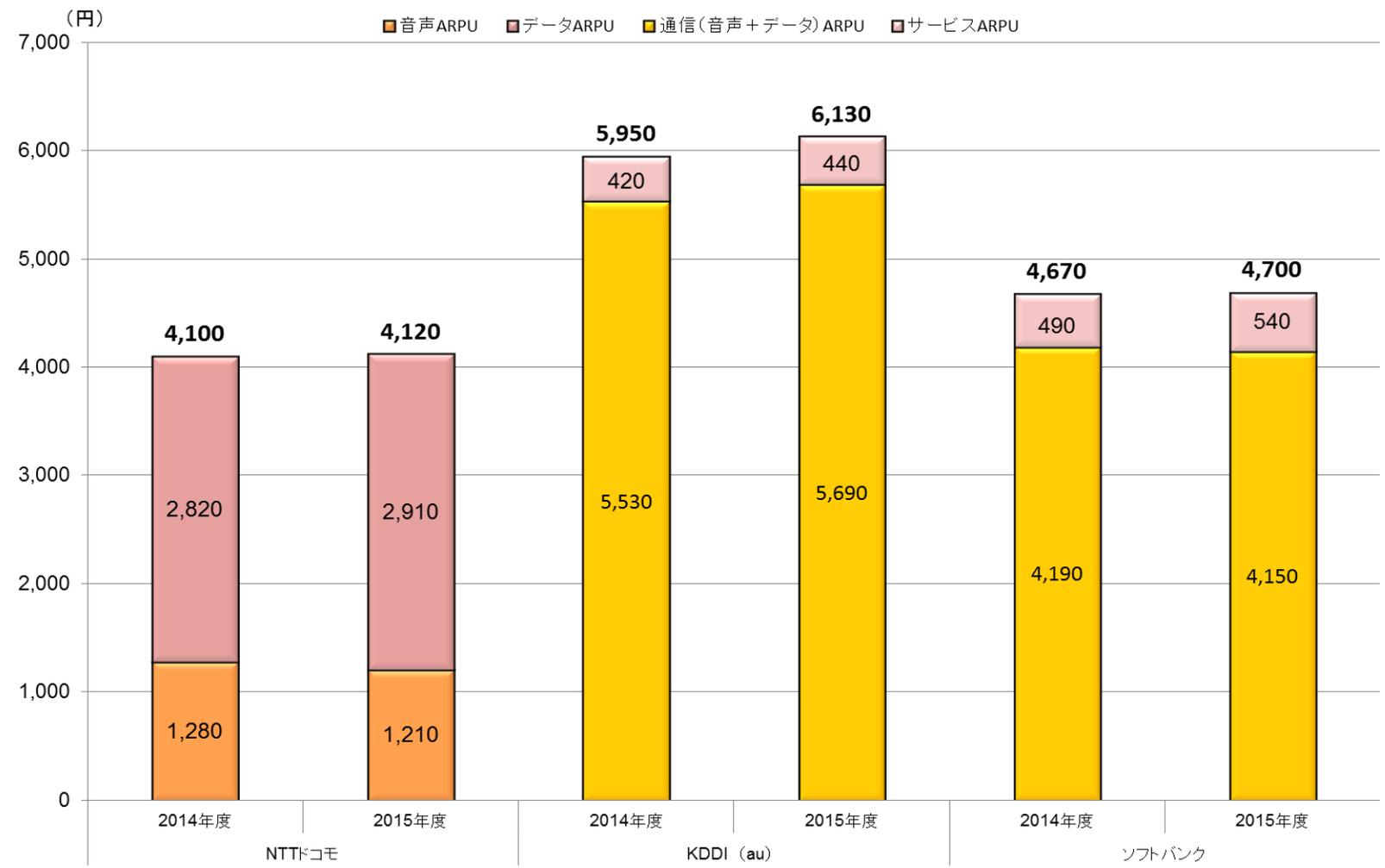
※2 データ容量制限を越えると低速のサービスに切り替わる。

(月額。税抜。平成28年10月1日時点)

出所:各社ウェブサイトを基に作成

# 一契約当たりの売上高(ARPU)の推移

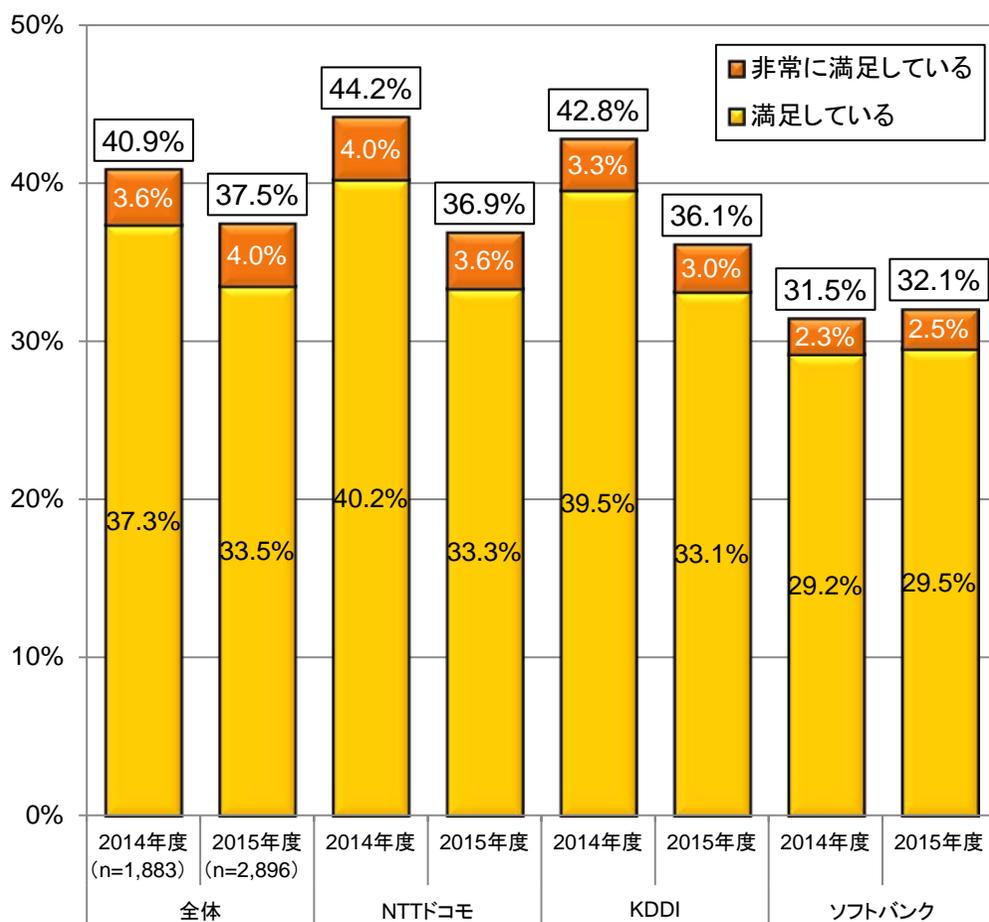
● **主要事業者(MNO)のARPUは、NTTドコモが4,120円(前年度比+20円)、KDDIが6,130円(前年度比+180円)、ソフトバンクが4,700円(前年度比+30円)と各社とも増加となっている(2015年度)。**



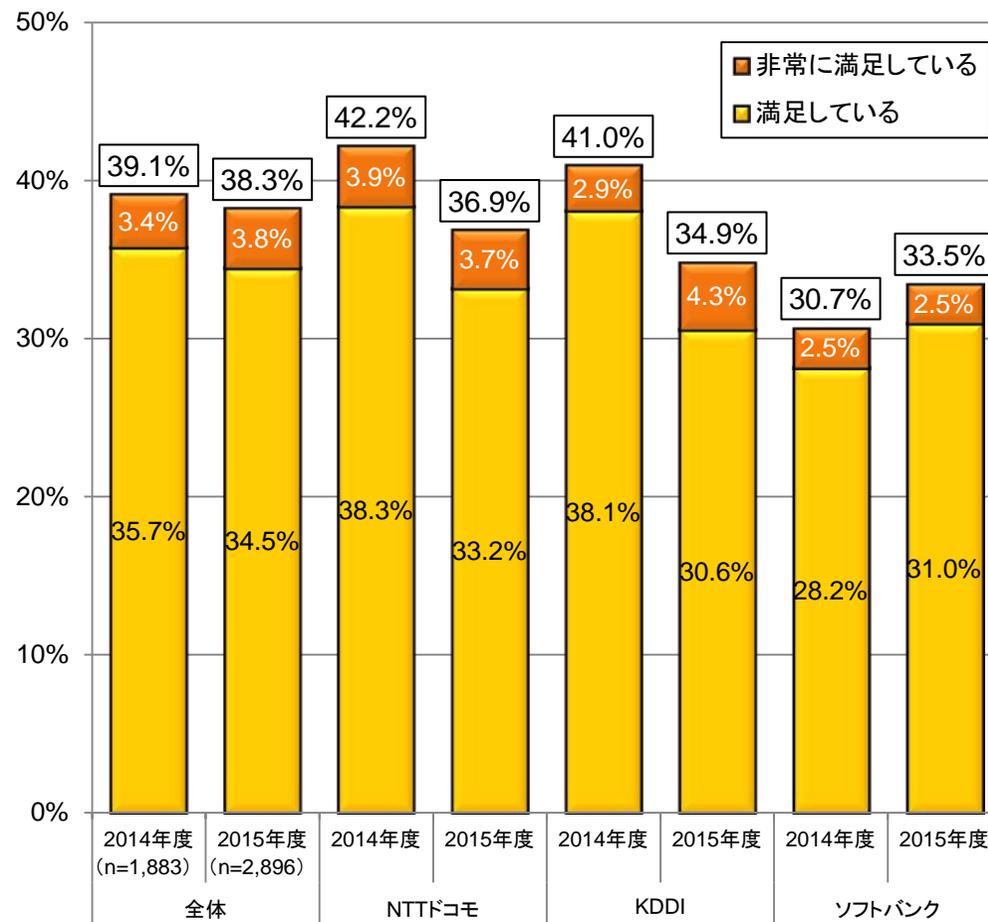
注1：各社のARPUは、各社ごとの基準で算出、公表されているもの。同一の計算方法で算出されたものではない。  
 注2：四捨五入表示のため、各ARPUの合算の数値と合計のARPUの数値が合わない場合がある。  
 注3：KDDI及びソフトバンクは音声+データ合計のARPUのみ公表。

- 現在主に利用している**移動系通信サービスに対する満足度**をみると、全体では「非常に満足」又は「満足」という回答の割合の合計が**37.5%**(前年度比▲3.4ポイント)と低下している(2015年度)。
- 現在主に利用している**移動系データ通信速度に対する満足度**をみると、全体では「非常に満足」又は「満足」という回答の割合の合計が**38.3%**(前年度比▲0.8ポイント)と低下している(2015年度)。

【現在主に利用している移動系通信サービスに対する満足度】

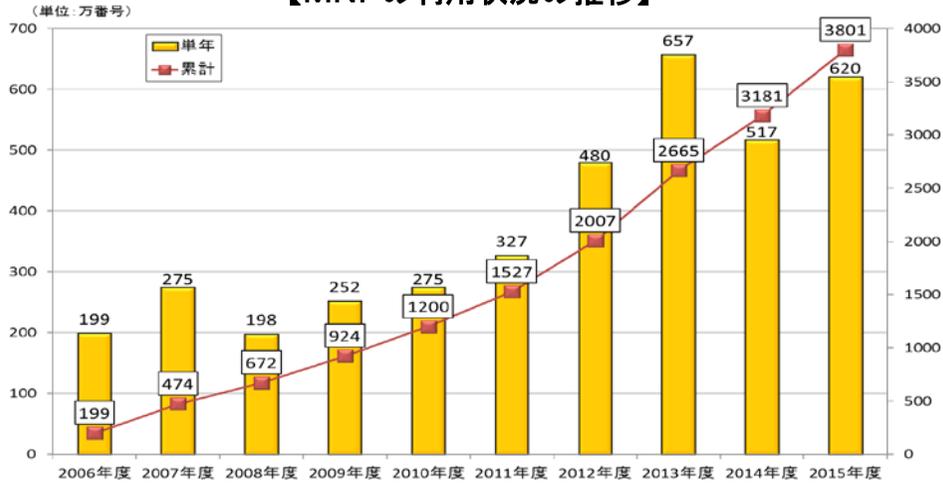


【現在主に利用している移動系データ通信速度に対する満足度】



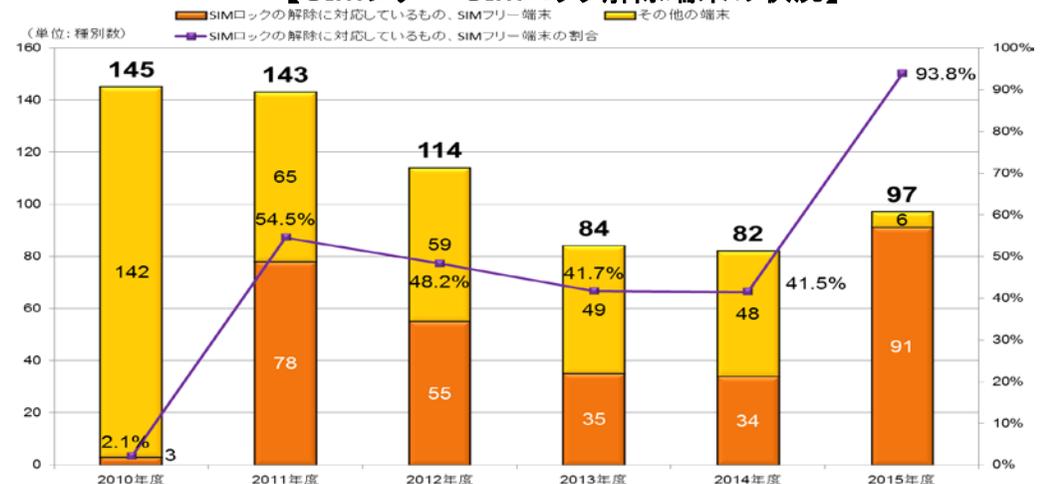
- **MNPの利用数は620万件** (前期比+19.9%)と、前年度より**増加**している(2015年度)。
- **SIMロック解除可能な端末及びSIMフリー端末の種別数**は、2015年度に発売された種別数97のうち、**91 (93.8%)**、前年度比+52.4ポイントと**大きく増加**している。
- **SIMロックの認知度**は、「知っている」という回答の割合の合計は**69.9%**となっている(2015年度)。**SIMロックが解除された端末の数**についても2016年度第1四半期以降**大きく増加**している。

【MNPの利用状況の推移】



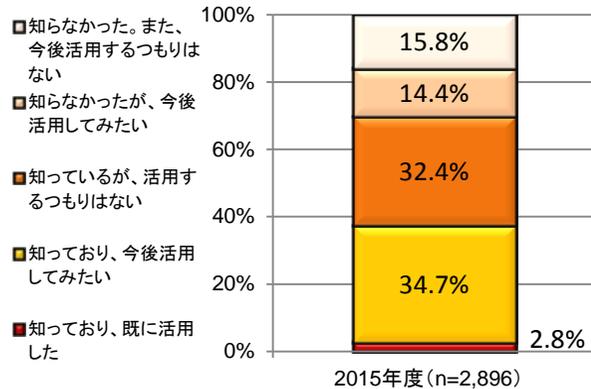
出所:電気通信事業報告規則に基づく報告

【SIMフリー・SIMロック解除端末の状況】



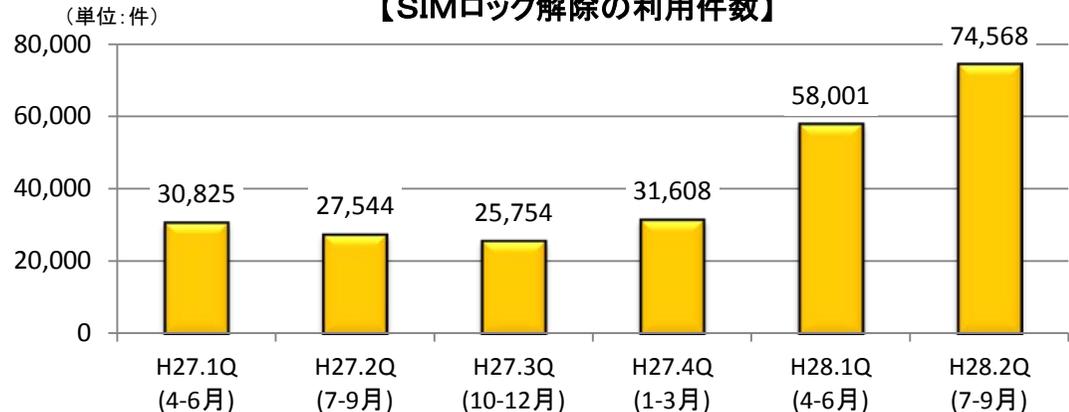
出所:2010~2014事業者アンケート及び電気通信事業報告規則に基づく報告

【SIMロックの認知度】



出所:2015利用者アンケート

【SIMロック解除の利用件数】



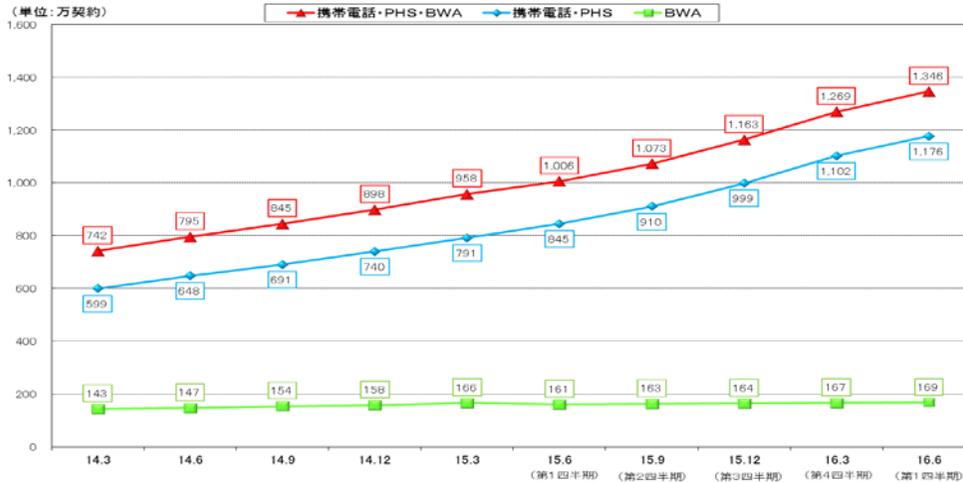
出所:電気通信事業報告規則に基づく報告

# MVNOサービスの契約数の推移

- **MVNOサービスの契約数**※は**1,346万**（前期比+6.0%、前年同期比+33.8%）（2016年6月末）。
- 移動系通信の契約数（1億6,391万）に占めるMVNOサービスの契約数比率は**8.2%**（前期比+0.4%、前年同期比+1.9%）。
- 2015年度の契約の**純増数**は、MNOの243万に対し、MVNOが311万となっており、**MVNOがMNOを上回っている**。

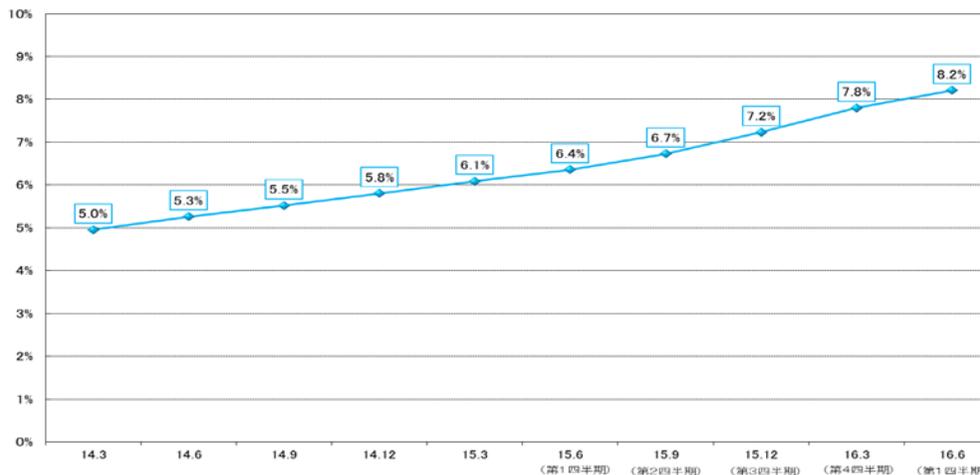
## 【MVNOサービスの契約数の推移】

※:MNOであるMVNOを除いた数値。

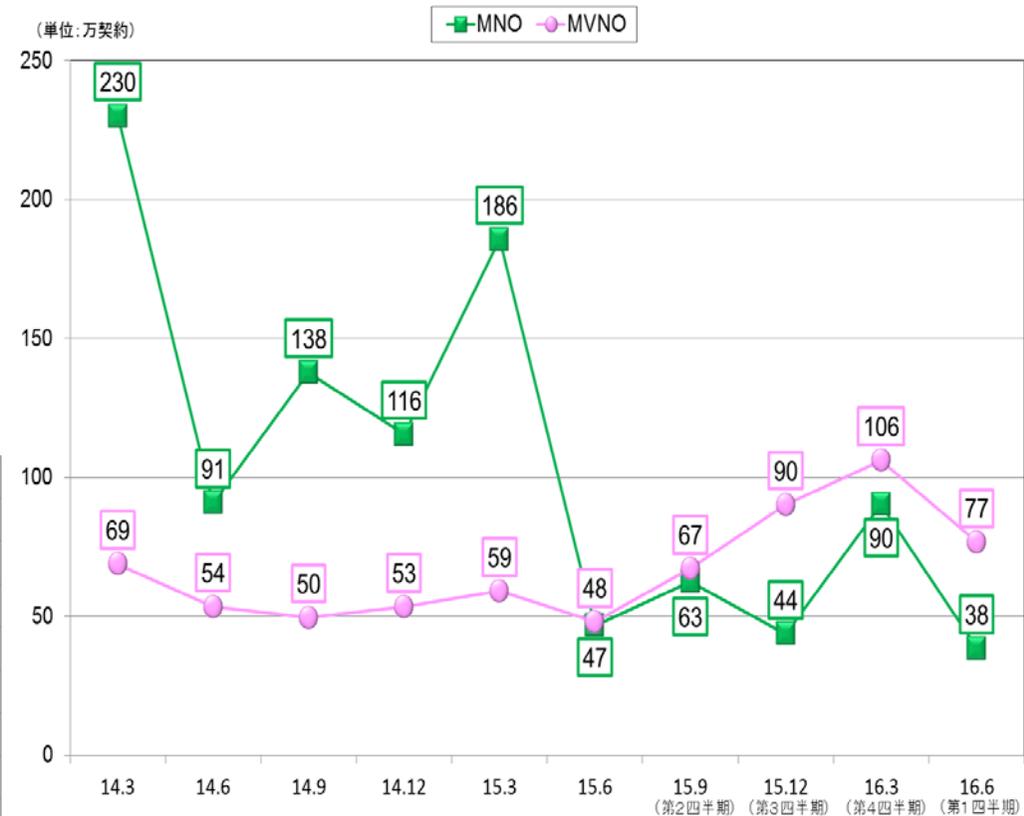


注:MNOからの報告を基に作成。

## 【移動系通信の契約数に占めるMVNOサービスの契約数比率の推移】



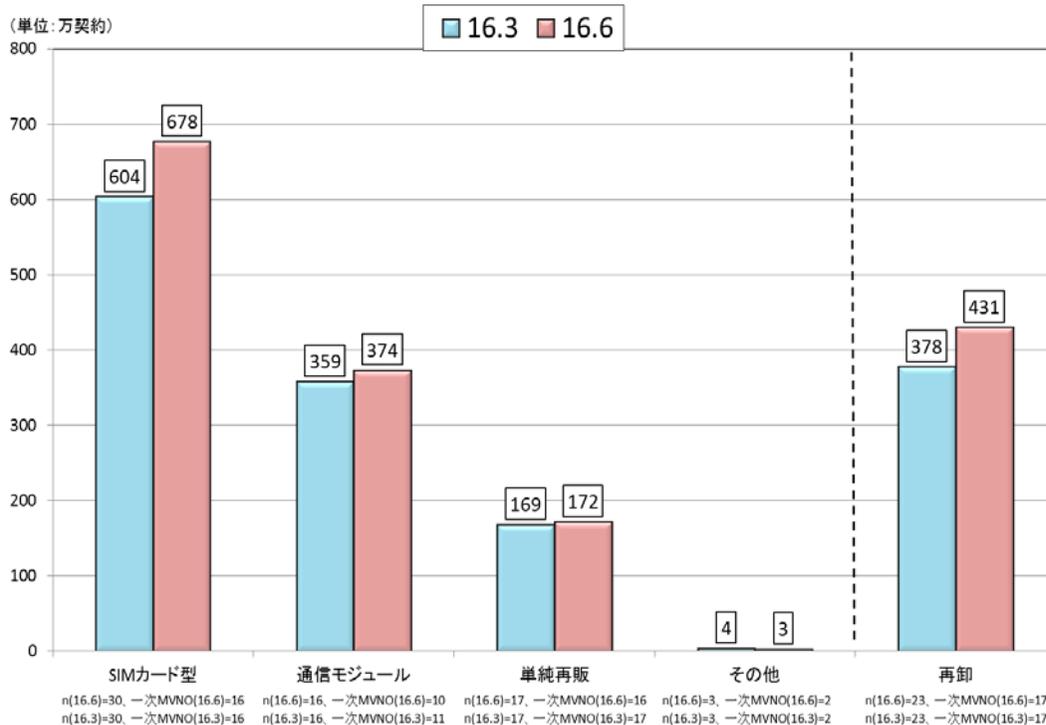
## 【移動系通信の契約数におけるMNO・MVNO別の純増数の推移】



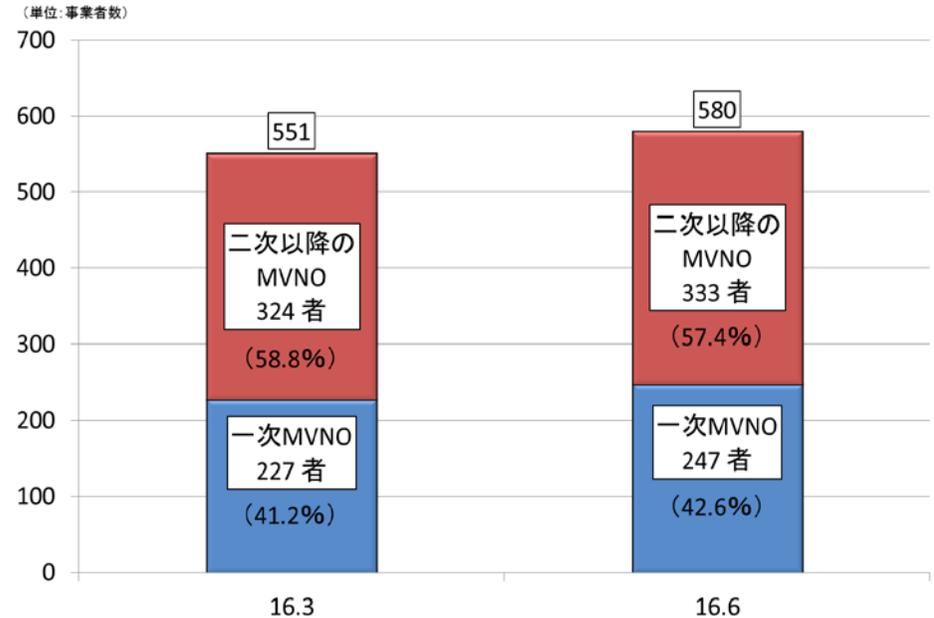
- 契約数が3万以上のMVNOのサービスの区分別契約数はSIMカード型が678万(前期比+12.2%)、通信モジュールが374万(前期比+4.1%)となっている。
- 一次MVNO※1サービスの事業者数はMNOであるMVNOを除くと247者※2(前期比+20者)となっている。二次以降のMVNO※3サービスの事業者数は333者(前期比+9者)となっている。

【MVNOサービスの区分別契約数】

※1 MNOから直接回線の提供を受けるMVNO。  
 ※2 MNOであるMVNOを含めると251社。  
 ※3 MVNOから回線の提供を受けるMVNO。



【MVNOサービスの事業者数(二次以降のMVNOも含む)と割合】



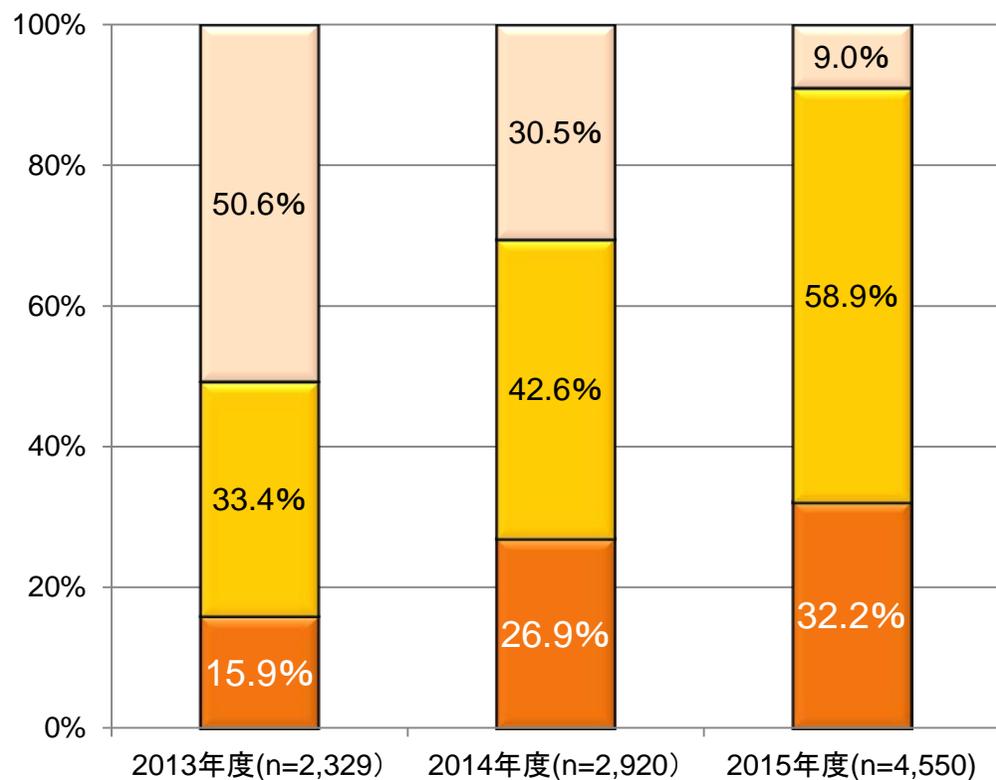
注1：提供している契約数が3万以上のMVNOからの報告を基に作成。そのため、「MVNOサービスの契約数の推移」とは合計値が異なる。  
 注2：再卸の契約数は、契約数3万以上のMVNOが再卸を行っている契約数であり、この中には契約数が3万以上の再卸先事業者が提供するSIMカード型、通信モジュール、単純再販、その他に係る再卸の契約数も含まれている。  
 注3：nは各区分のMVNOサービスを提供する事業者数。複数の区分のサービスを提供する事業者については、それぞれの区分ごとに事業者数を計上している。  
 注4：それぞれの区分については以下のとおり。  
 ・SIMカード型：SIMカードを使用してMVNOサービスを提供している場合（SIMカードが製品に組み込まれている場合を含む。）で、自ら最終利用者に提供しているもの。  
 ・通信モジュール：特定の業務の用に供する通信に用途が限定されているモジュール向けに提供している場合で、自ら最終利用者に提供しているもの。  
 ・単純再販：MNOが提供するサービスと同内容のMVNOサービスを提供している場合で、自ら最終利用者に提供しているもの。  
 ・その他：「再卸」、「SIMカード型」、「通信モジュール」及び「単純再販」のいずれにも属さないMVNOサービス。  
 ・再卸：他のMVNOに対し、MVNOサービスを卸電気通信役務として提供しているもの。

注1：MNO及び提供している契約数が3万以上のMVNOからの報告を基に作成。  
 注2：二次以降のMVNOの事業者数には、二次以降のMVNOのみから回線の提供を受けている契約数3万未満のMVNOの事業者数は含まない。

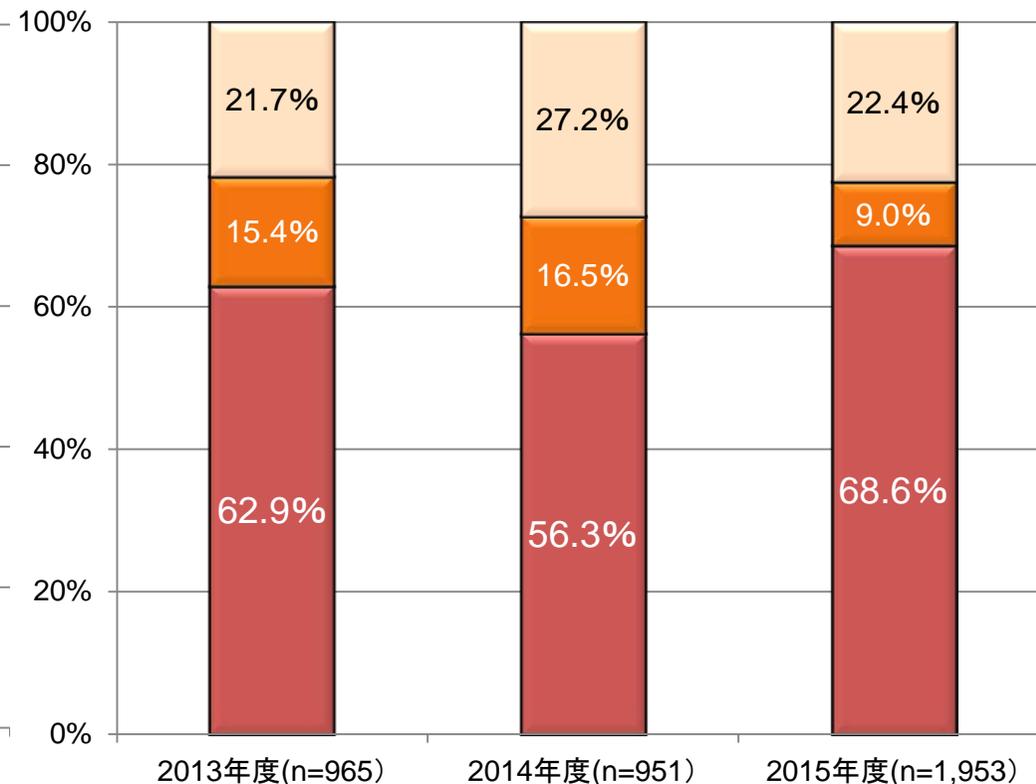
# MVNOの認知度等

- MVNOの認知度をみると、「聞いたことはある」又は「よく知っている」という回答の割合の合計が**91.1%**（前年度比+21.6ポイント）と大きく上昇している(2015年度)。
- MVNOの今後の利用意向がある者のうち、「音声・データ共に利用したい」という回答の割合が**68.6%**（前年度比+12.3ポイント）と**最多**となっている(2015年度)。

### 【MVNOの認知度】



### 【MVNOの今後の利用動向】



□ 知らない   
 ■ よく知らないが、聞いたことはある   
 ■ よく知っている   
 □ データのみ利用したい   
 ■ 音声のみ利用したい   
 ■ 音声・データ共に利用したい

## 2. 固定系ブロードバンド市場

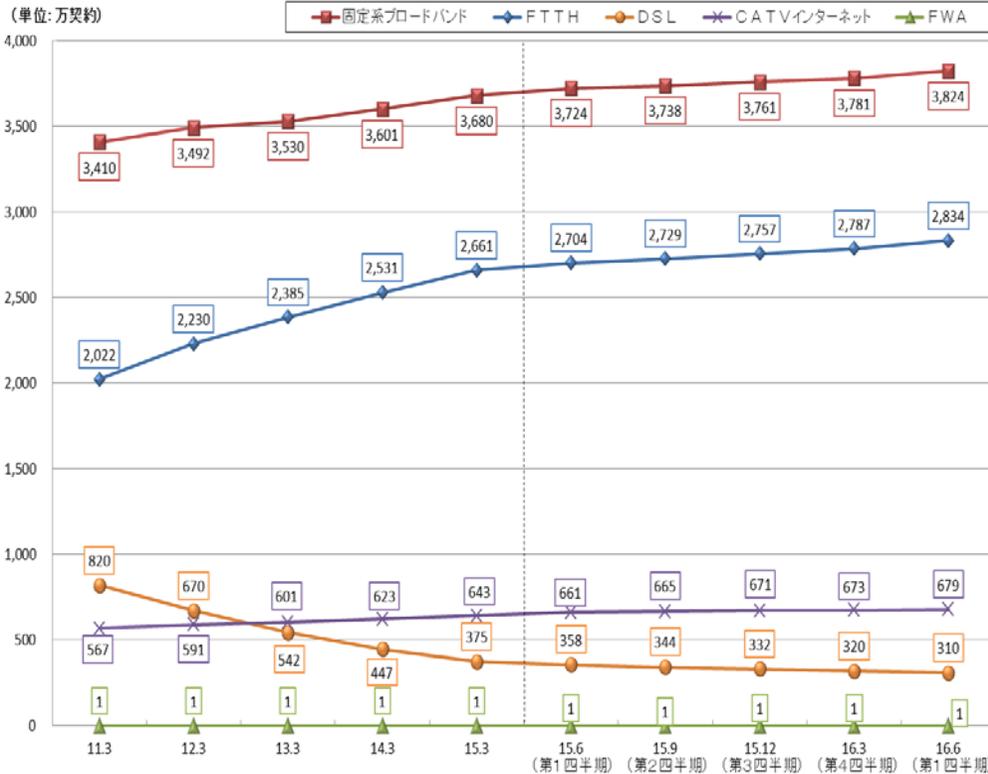
---

- 固定系ブロードバンドサービス※1の契約数は**3,824万**(前期比+1.1%、前年同期比+2.7%)と増加傾向となっている(2016年6月末)。
- FTTHの契約数は**2,834万**(前期比+1.7%、前年同期比+4.8%)と増加傾向となっている。固定系ブロードバンド契約数全体に占める割合は**74.1%**(前期比+0.4ポイント、前年同期比+1.5%)(2016年6月末)。
- 固定系超高速ブロードバンドサービス※2の契約数は**3,186万**(前期比+1.8%、前年同期比+5.4%)と増加傾向となっている。このうち、CATVインターネット(通信速度下り30Mbps以上)は**352万**(前期比+2.8%、前年同期比+10.5%)(2016年6月末)。
- 固定系超高速ブロードバンドの事業者別純増数の推移をみるとNTT東日本・西日本(以下「NTT東西」という。)と競争事業者の差が縮小してきている(2015年度末)。

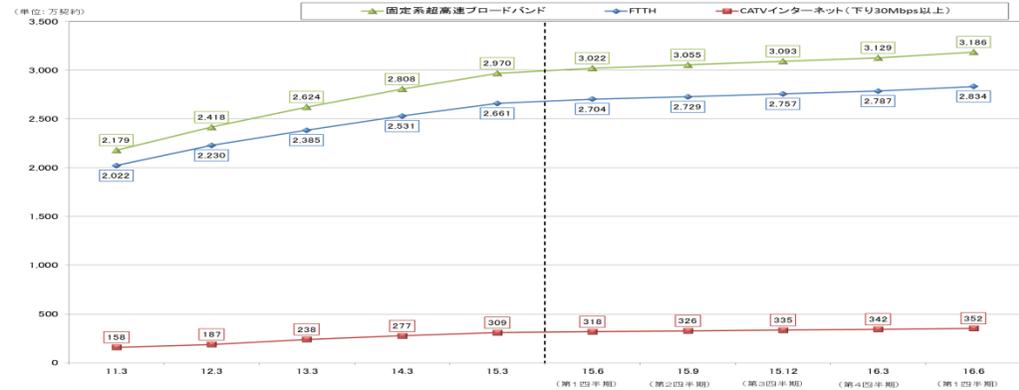
※1 FTTH、DSL、CATVインターネット及びFWAの合計。

※2 FTTH及び通信速度下り30Mbps以上のCATVインターネットの合計。

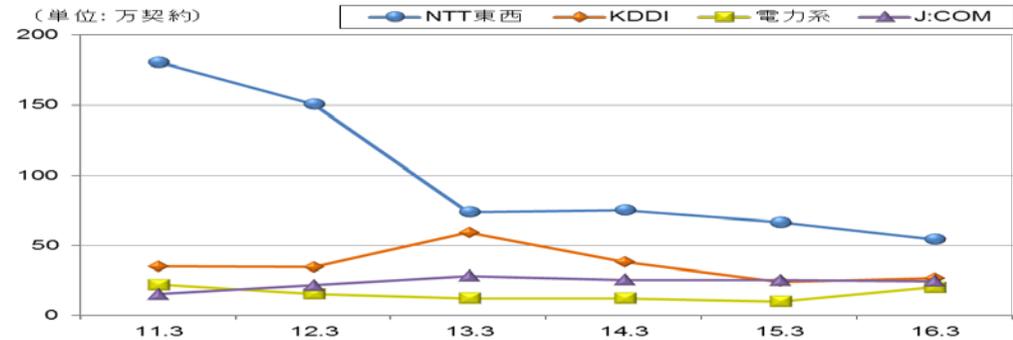
### 【固定系ブロードバンドサービスの契約数の推移】



### 【固定系超高速ブロードバンドサービスの契約数の推移】

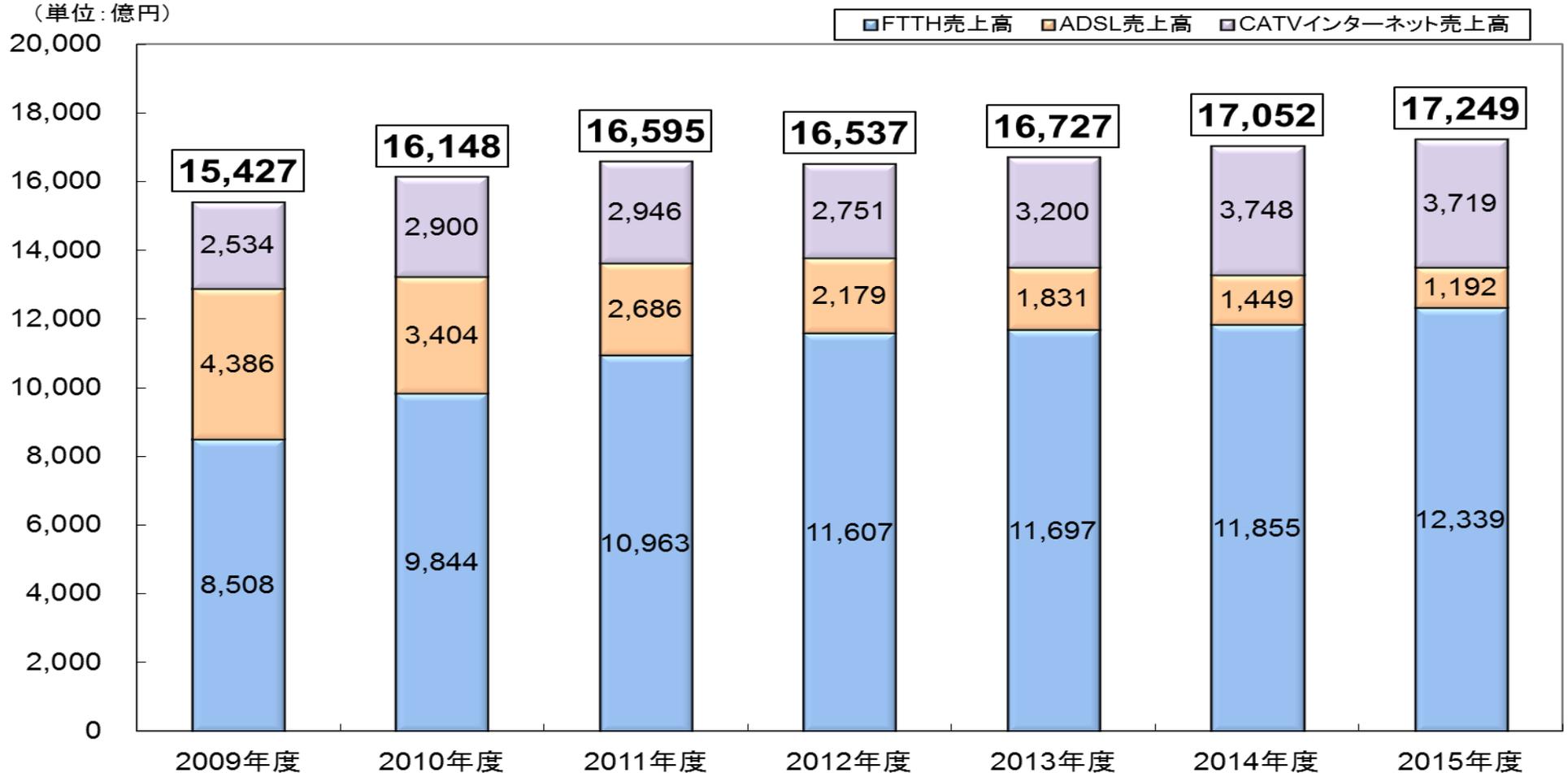


### 【固定系超高速ブロードバンドサービスの事業者別純増数の推移】



- 固定系ブロードバンド市場における売上高は1兆7,249億円(前年度比+1.2%)と増加傾向となっている(2015年度)。
- サービス別にみると、FTTHが全体の71.5%(前年度比+2.0ポイント)を占めている(2015年度)。

【固定系ブロードバンド市場の売上高の推移】



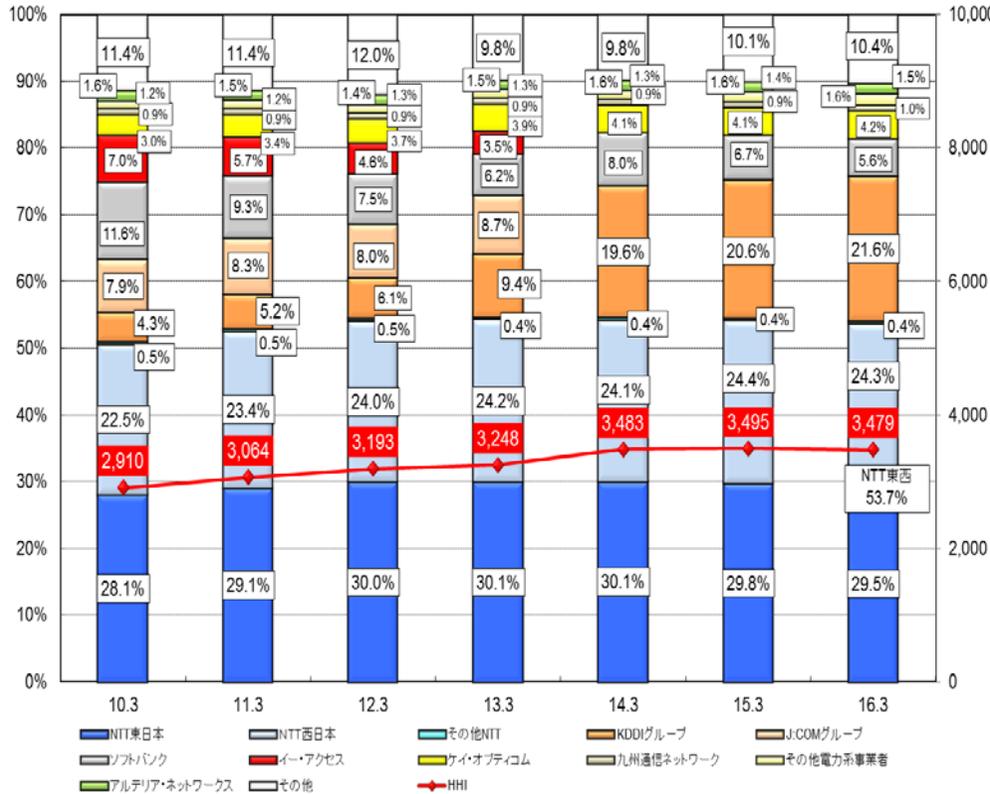
注: 公表されている事業者のARPU及び契約数から売上高を推計している。

# 固定系ブロードバンドサービスの契約数における事業者別シェア等

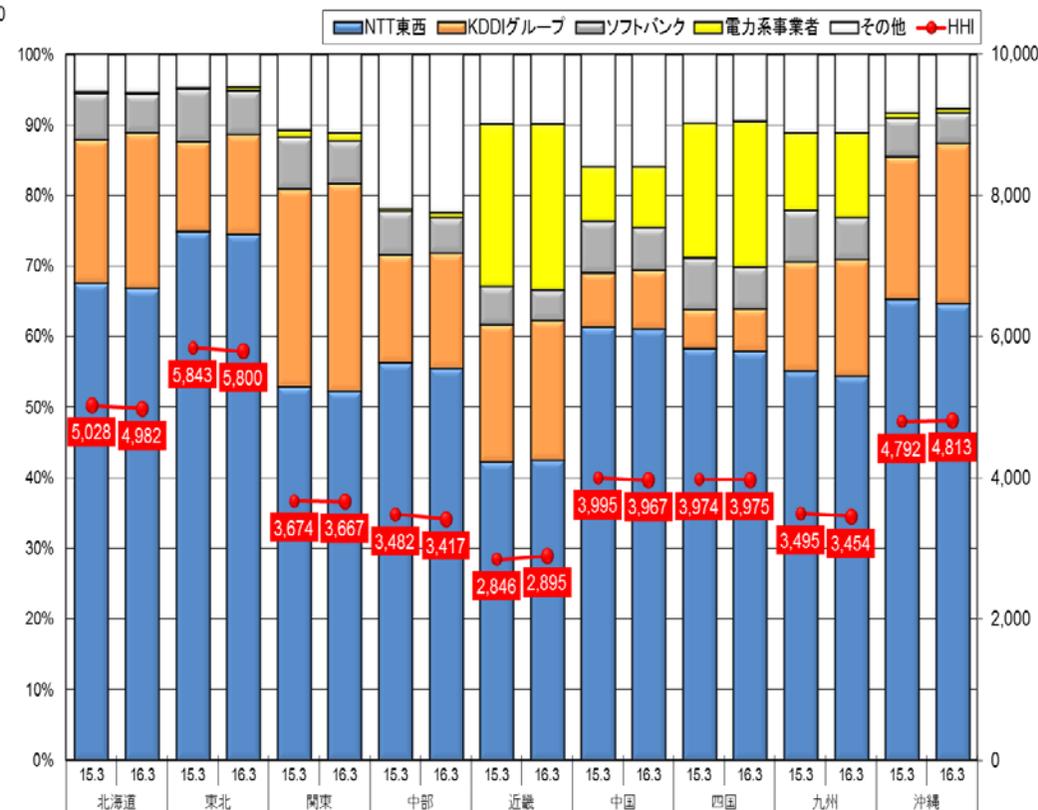
- 固定系ブロードバンドの契約数における事業者別シェア※は、NTT東西が53.7%（前年度末比▲0.5ポイント）、KDDIグループが21.6%（前年度末比+1.0ポイント）、ソフトバンクが5.6%（前年度末比▲1.2ポイント）。HHIは3,479（前年度末比▲16）と微減となっている（2015年度末）。
- 固定系ブロードバンドの契約数における事業者別シェア（地域ブロック別）は、近畿以外の地域でNTT東西のシェアが5割を超えている。近畿以外の地域でNTT東西のシェアが減少（2015年度末）。HHIについては、最も高い地域は東北で5,800、最も低い地域は近畿で2,895となっている。

※ 卸電気通信役務の提供に係るものを含む。本頁及び次頁において同じ。

【固定系ブロードバンドサービスの契約数における事業者別シェア及び市場集中度の推移】



【固定系ブロードバンドサービスの契約数における事業者別シェア及び市場集中度の推移（地域ブロック別）】

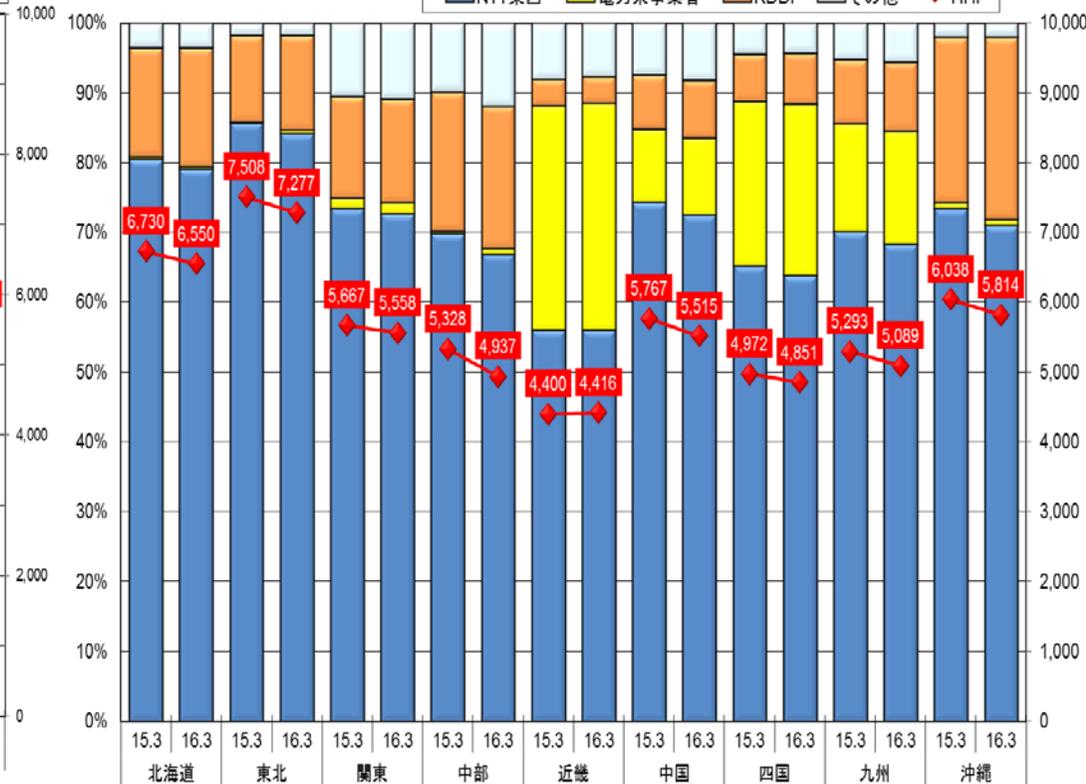
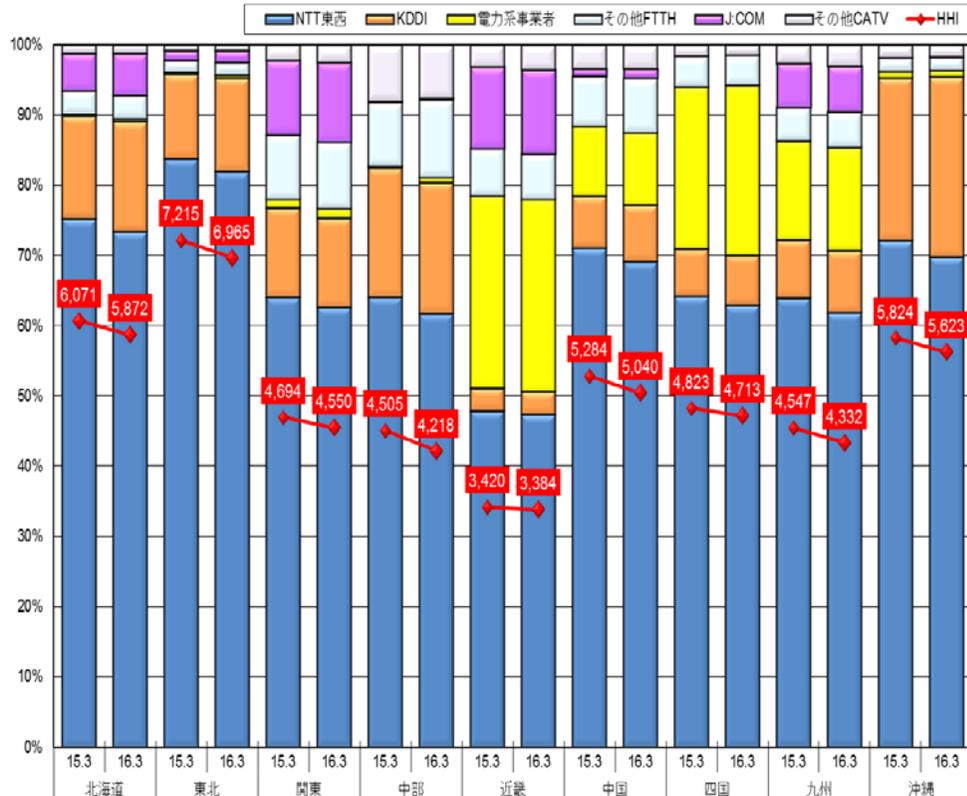


注1:この固定系ブロードバンド契約数の事業者別シェアはFTTH、DSL及びCATVインターネットを対象としており、FWAを含んでいない。  
 注2:KDDIのシェアには、沖縄セルラー、JCN、CTC、OTNet（2009年度第4四半期以降）及びJ:COMグループ（2013年度第1四半期以降）が含まれる。  
 注3:その他NTTのシェアには、その他NTTのシェアには、NTT MEDIAS、NTT-ME及びNTTビジネスソリューションズが含まれる。  
 注4:その他電力系事業者のシェアには、北海道総合通信網（2010年度第4四半期まで）、東北インテリジェント通信（2009年度第4四半期まで）、北陸通信ネットワーク、STNet、エネルギア・コミュニケーションズ、ファミリーネット・ジャパン及びケイオプティ・サイバーポート（2010年度第4四半期まで）が含まれる。  
 注5:UCOMIは丸紅アクセスソリューションズと合併し、アルテリア・ネットワークスに社名変更（2013年度第4四半期以降）。

- 固定系超高速ブロードバンドの契約数における事業者別シェア(地域ブロック別)は、近畿以外の地域でNTT東西のシェアが6割を超えている。全ての地域でNTT東西のシェアが減少(2015年度末)。HHIについては、最も高い地域は東北で6,965、最も低い地域は近畿で3,384となっている。
- FTTHの契約数における事業者別シェア(地域ブロック別)は、近畿以外の地域でNTT東西のシェアが6割を超えている。近畿以外の地域でNTT東西のシェアが減少(2015年度末)。HHIについては、最も高い地域は東北で7,277、最も低い地域は近畿で4,416となっている。

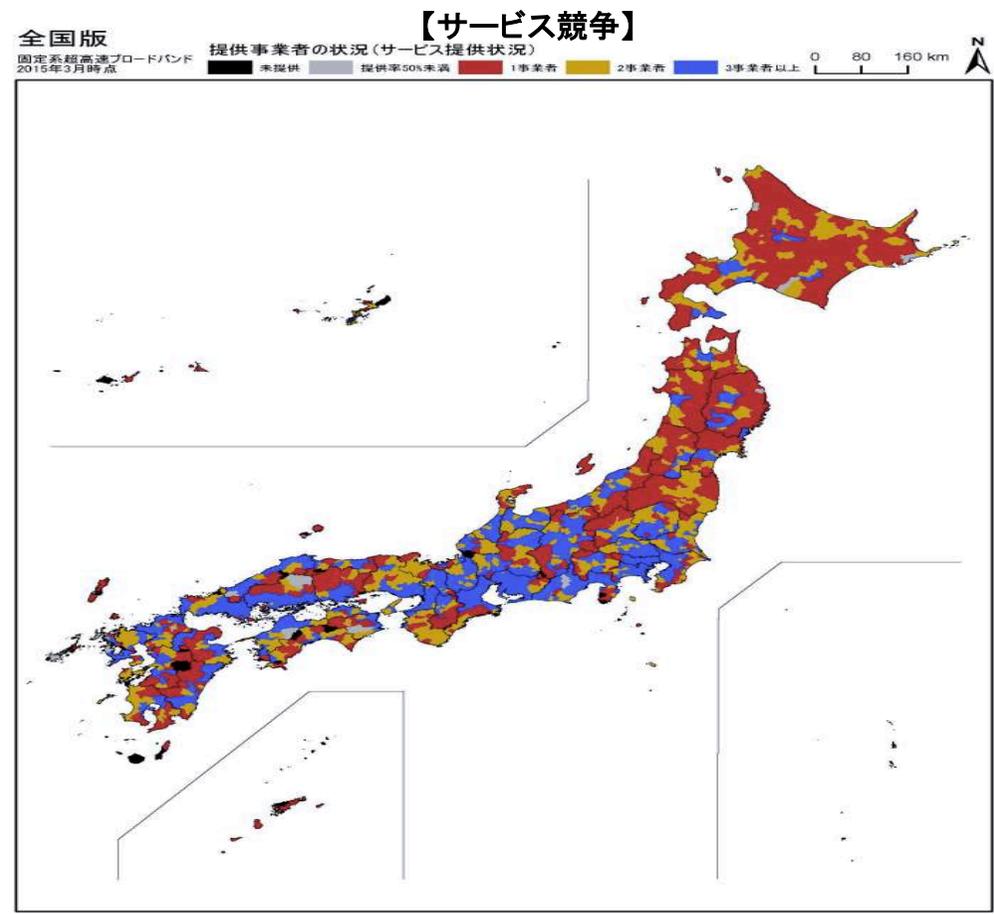
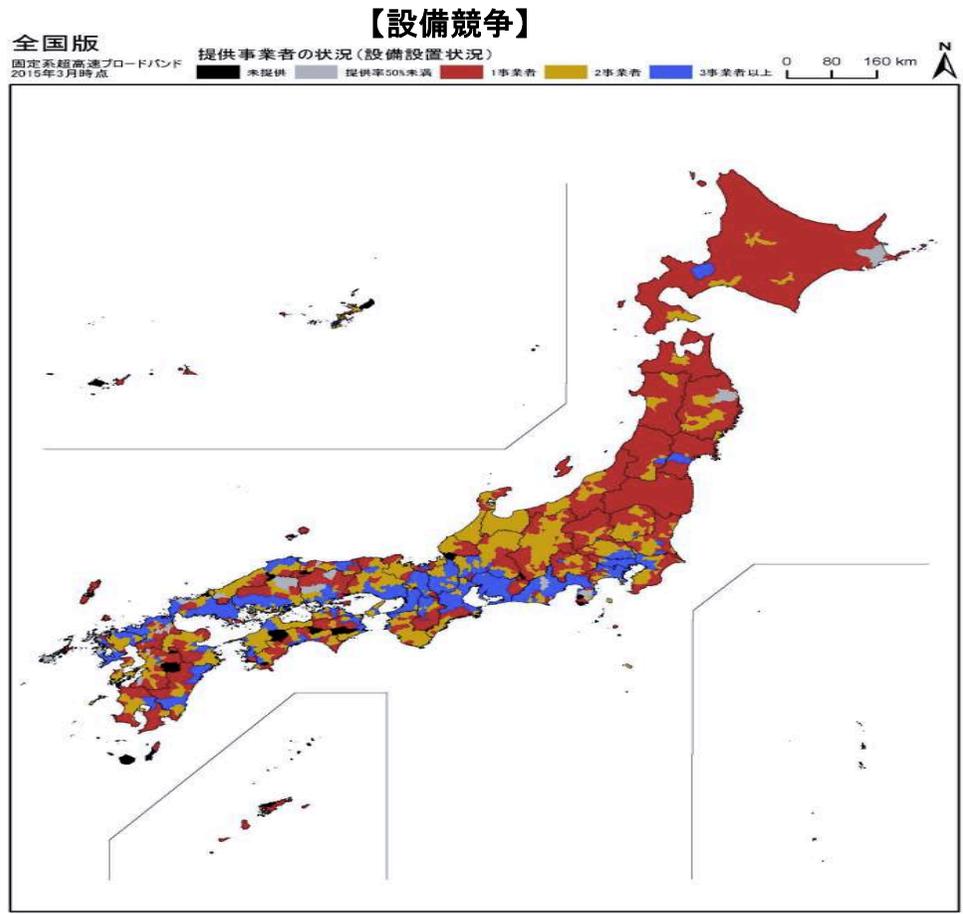
【固定系超高速ブロードバンドサービスの契約数における事業者別シェア及び市場集中度の推移(地域ブロック別)】

【FTTHサービスの契約数における事業者別シェア及び市場集中度の推移(地域ブロック別)】



# 設備競争及びサービス競争のマッピング

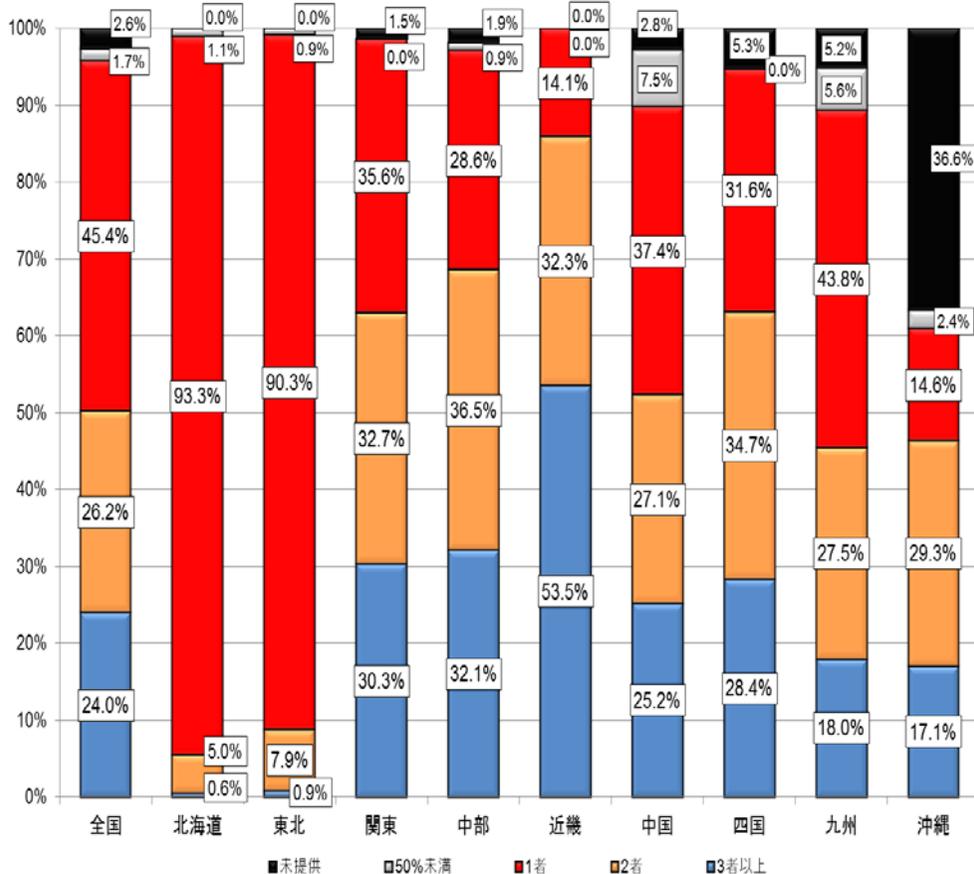
- 固定系超高速ブロードバンドの設備は、完全未提供の市町村数(46)が全体(1,741)の**2.6%**となっている(2015年度末)。
- 地域別の設備競争の状況をみると、北海道・東北は低調、近畿が活発となっている(2015年度末)。
- 地域別のサービス競争の状況をみると、東日本は低調、西日本が活発となっている(2015年度末)。



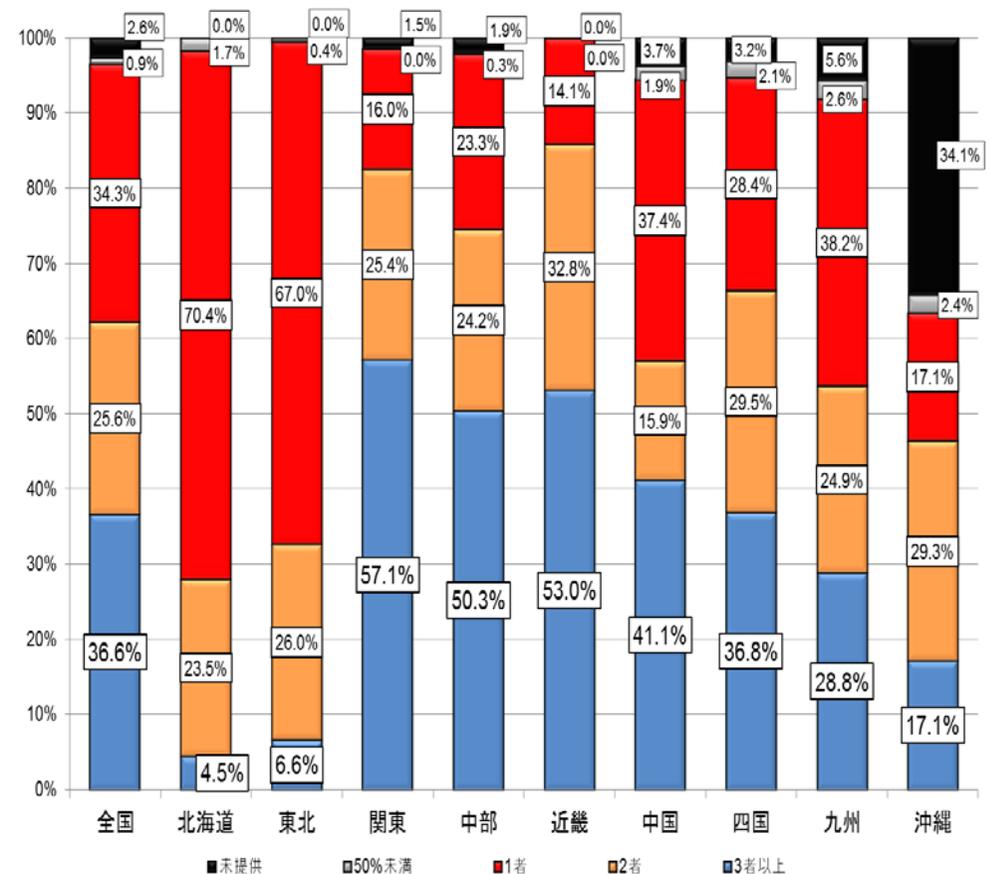
注1:ある事業者の設備整備エリアに含まれる、固定系超高速ブロードバンドサービスが利用可能な世帯が、市区町村内全世帯のうち50%以上である場合、当該事業者はその市区町村において設備整備済であるとし、着色する。  
 注2:設備を整備している事業者はいるものの、50%以上の世帯をカバーする範囲を整備している事業者がない場合、「提供率50%未満」としている。なお、提供率50%未満の事業者が複数いる場合であっても合計はしない。  
 注3:1事業者によりFTTH及び通信速度30Mbps以上のCATVインターネット両方のサービスが提供されている場合は、1事業者としてカウント。

- 設備整備事業者数別の市区町村シェアは、「1者」が最も多く45.4%、「2者」が26.2%、「3者以上」が24.0%となっており、1者の設備しか整備されていない市町村が約半数を占めている(2015年度末)。
- サービス提供事業者数別の市区町村シェアは、「3者以上」が最も多く36.6%、「1者」が34.3%、「2者以上」が25.2%となっており、設備競争の状況と比べて活発となっている(2015年度末)。

【設備整備事業者数別の市区町村シェア(地域ブロック別)】

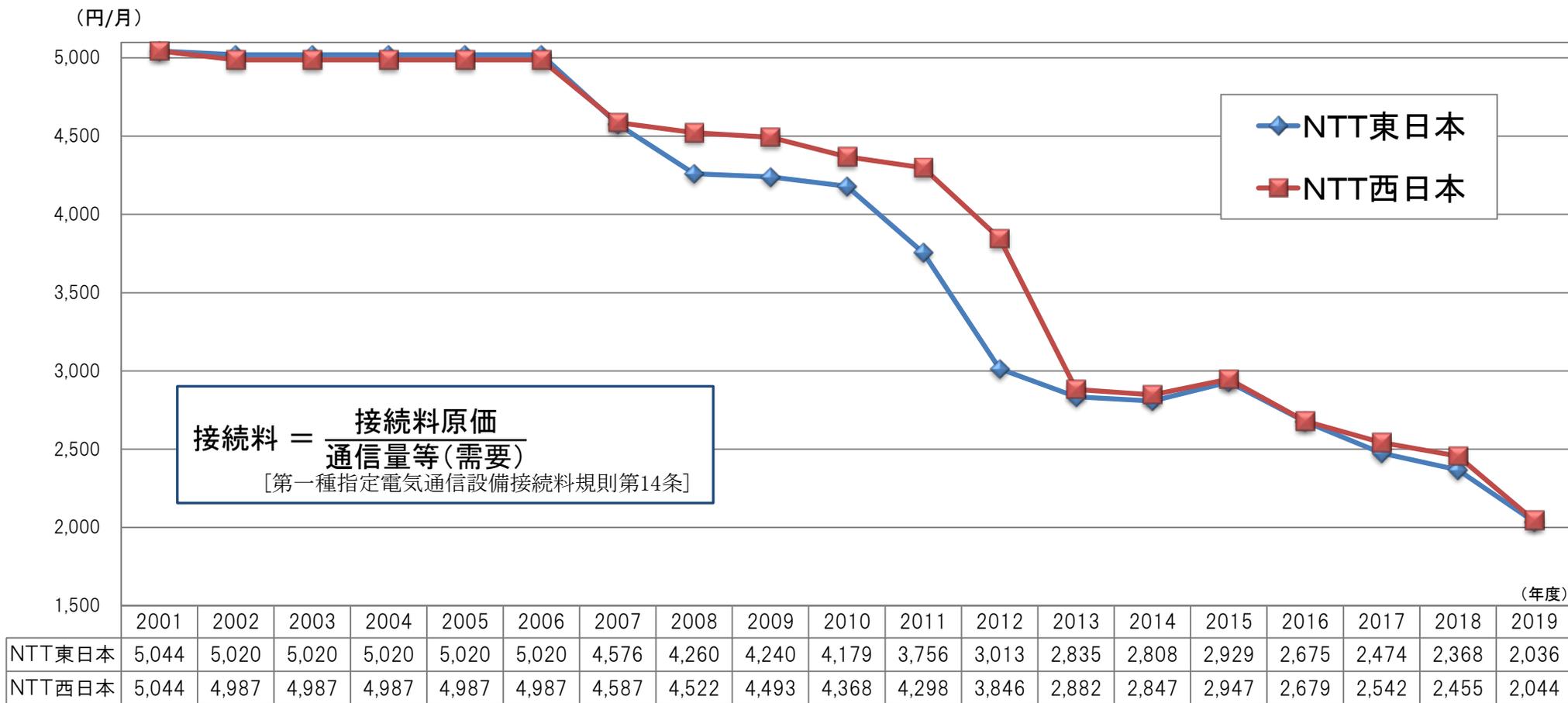


【サービス提供事業者数別の市区町村シェア(地域ブロック別)】



# 加入光ファイバ接続料の推移

● 2016年7月に認可した加入光ファイバに係る接続料のうち、2019年度のシェアドアクセス方式に係る主端末回線の接続料は、NTT東日本においては2,036円、NTT西日本においては2,044円となっている。



注1 本グラフはシェアドアクセス方式の主端末回線に係る接続料の推移を示したもの。  
 注2 接続料は、7年間(13年度～19年度)、3年間(20年度～22年度)、(23年度～25年度)、(26年度～28年度)又は4年間(28年度～31年度)を算定期間とする将来原価方式により算定。  
 注3 上記接続料には、局外スプリッタ料金(H18年度までは将来原価方式、H19年度以降は実績原価方式で算定)を含み、分岐端末回線に係る接続料を含まない。

# NTT東西による光ファイバ回線の貸出

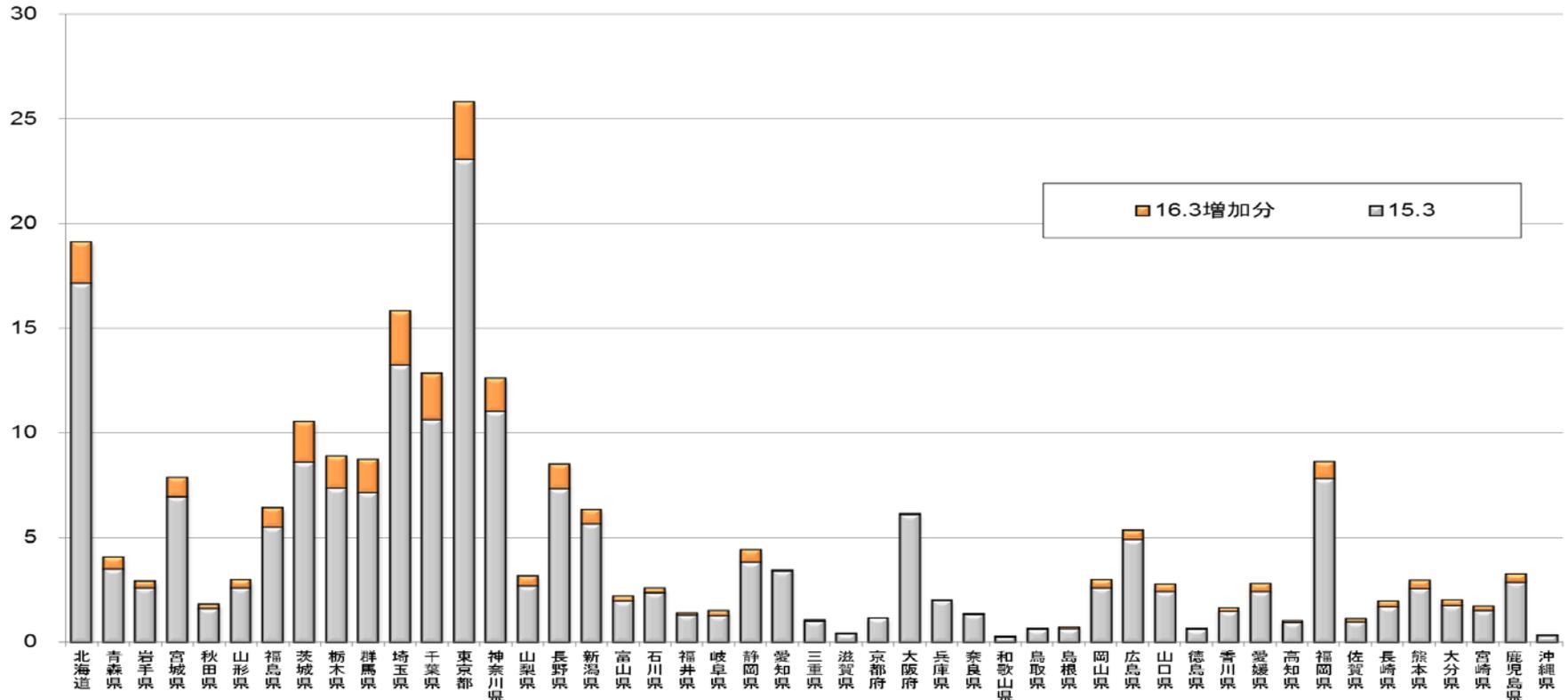
- NTT東西の光ファイバ回線については、電気通信事業法第32条及び第33条において競争事業者への貸出義務が課されており、**光ファイバの貸出し(加入光ファイバの相互接続)の総数は約226万回線**(2015年度末)。

(参考) NTT東日本分:約158万回線 NTT西日本分:約68万回線

- 都道府県別にみると、貸出回線数が多いのは、東京都(約26万)、北海道(約19万)、埼玉県(約16万)のほか、千葉県及び神奈川県(約13万)、茨城県(約11万)、福岡県、栃木県及び群馬県(約9万)、長野県(約8万)などであり、**主に関東地方での貸出回線数が多い。**

【NTT東西による光ファイバ回線の貸出回線数(都道府県別)】

(単位: 万回線)



# 主要な固定系ブロードバンドサービスの利用料金

回線	区分	事業者	サービス名称	メニュー	速度(下り)	月額料金
FTTH	戸建	NTT東日本	フレッツ光ネクスト	ファミリー・ギガラインタイプ	1Gbps	4,700円※1
				ファミリー・ハイスピードタイプ	200Mbps	4,500円※1
		NTT西日本	フレッツ光ネクスト	ファミリー・スーパーハイスピードタイプ集	1Gbps	4,300円※1
				ファミリー・ハイスピードタイプ	200Mbps	
		KDDI	auひかり ホームタイプ	ギガ得プラン	1Gbps	5,100円※2
	So-net	NURO光	NURO光G2V	2Gbps	4,743円	
	集合	NTT東日本	フレッツ光ネクスト	ギガマンション・スマートタイプ	1Gbps	3,050円～4,050円※1
				マンション・ハイスピードタイプ	200Mbps	2,750円～3,750円※1
		NTT西日本	フレッツ光ネクスト	マンション・スーパーハイスピードタイプ集	1Gbps	2,530円～3,420円※1
				マンション・ハイスピードタイプ	200Mbps	
			フレッツ光ライト	100Mbps	2,000円～4,300円※1	
		KDDI	auひかり マンションタイプ	マンション ギガ	1Gbps	4,150円
				タイプV、都市機構デラックス、E、F	100Mbps	3,900円
	ケイ・オプティコム	eo光ネット	マンションタイプ	100Mbps	3,524円	
ADSL	NTT東日本	フレッツ・ADSLモアⅢ	エントリー	47Mbps	2,800円～5,050円※1	
			モアスペシャル	1.0Mbps	1,600円～2,950円※1	
	NTT西日本	1.5Mプラン	1.5Mbps	2,413円～4,455円※1		
			1.5Mbps	2,430円～4,095円※1		
	ソフトバンク (旧:ソフトバンクBB)	Yahoo! BB ADSL通常タイプ	50M Revo (NTT東日本エリア)	50Mbps	4,228円～5,820円※1	
8M (NTT東日本エリア)			8Mbps	3,128円～4,720円※1		
CATV	J:COMグループ	J:COM NET ウルトラ320Mコース(旧:ウルトラ160Mコース)	160Mbps	6,000円		
	イツコム	かっとびメガ160	160Mbps	6,000円		
	中部ケーブルネットワーク	1Gコース	1Gbps	5,200円		
	TOKAIケーブルネットワーク	パーソナルスーパー	30Mbps	4,980円		

注:特段の記載がある場合を除き、金額は全て税抜き、長期契約割引適用後、ISP料金込み。2016年9月末現在。

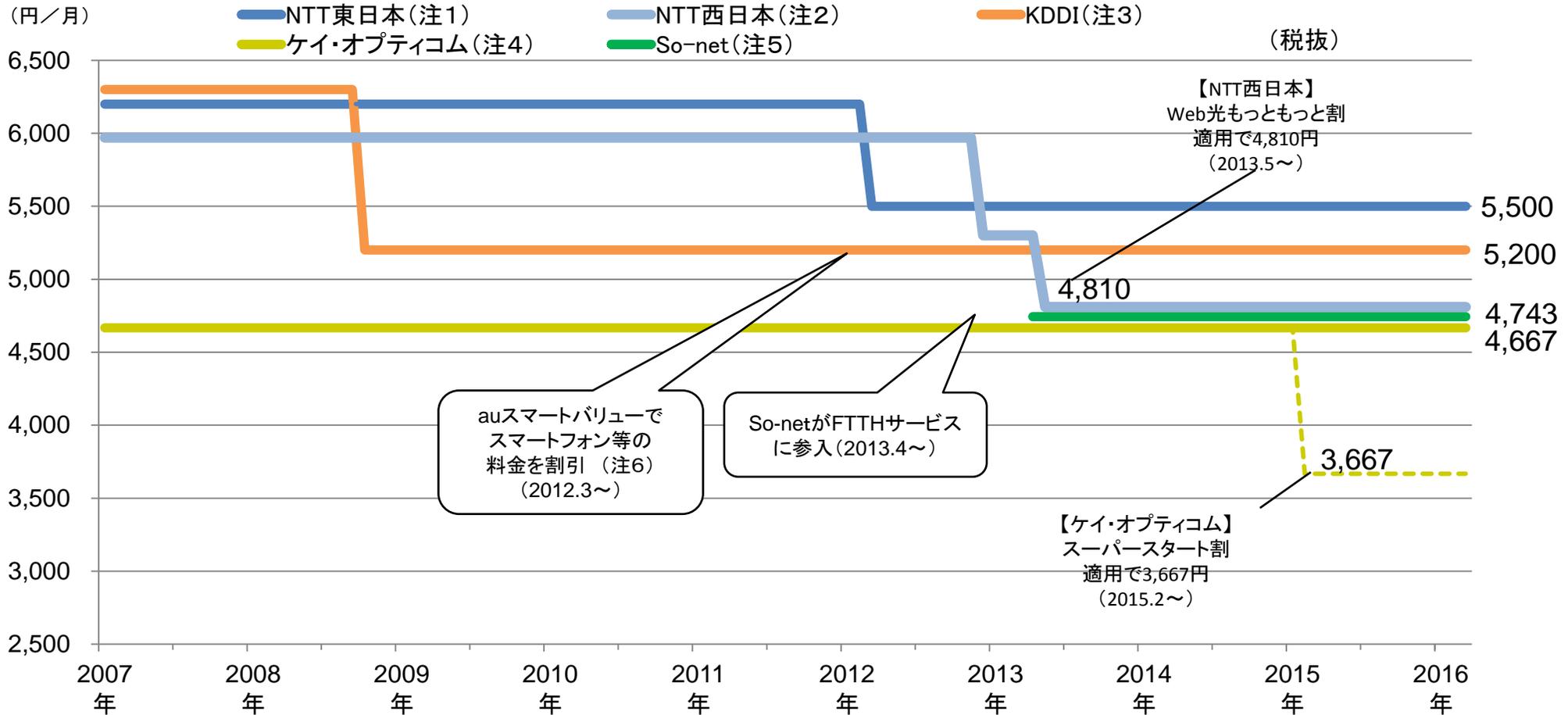
※1 ISP料金は含まれない。

※2 「ずっとギガ得プラン」(3年契約)の1年目の料金。

# FTTHの月額料金の推移

● FTTHの月額料金の推移をみると、近年はおおむね5,000円／月（戸建向けの場合）で推移している。

（戸建向け、各種割引適用後の初年度料金。期間限定のキャンペーン料金は参考掲載）



注1:【NTT東日本】ISP料金（ぶらら）、屋内配線利用料、回線終端装置利用料を含む。2008年3月まではBフレッツ・ハイパーファミリータイプ、2008年3月からフレッツ・光ネクストファミリータイプの料金（2012年3月からはにねん割適用料金）。

注2:【NTT西日本】ISP料金（ぶらら）、屋内配線利用料、回線終端装置利用料を含む。2005年2月まではBフレッツ・ファミリー100タイプ、2005年3月からはフレッツ・光プレミアムファミリータイプ、2008年3月からフレッツ・光ネクストファミリータイプの料金（2012年11月まではあつと割引適用料金、2012年12月からは光もっともっと割適用料金）。

注3:【KDDI】ISP料金（au one net）、端末設備使用料、モデム使用料を含む。2006年12月までは東京電力のTEPCOひかり・ホームタイプ、2007年1月からKDDIのひかりone、2008年10月からはギガ得プラン（1年目）の料金。

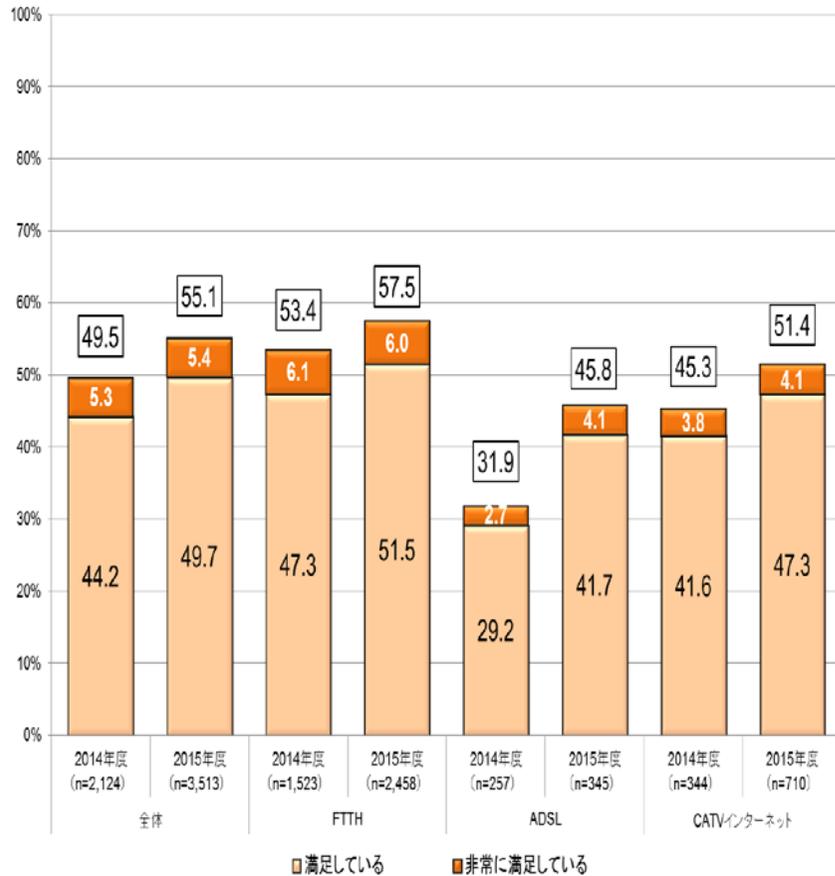
注4:【ケイ・オプティコム】ISP料金、回線終端装置使用料を含む。eo光ネット（ホームタイプ）100Mコース（2005年7月eoホームファイバーから改称）の料金（即割適用料金）。

注5:【So-net】ISP料金（so-net）、端末設備使用料、モデム使用料を含む。NURO光の料金（2年継続契約）。

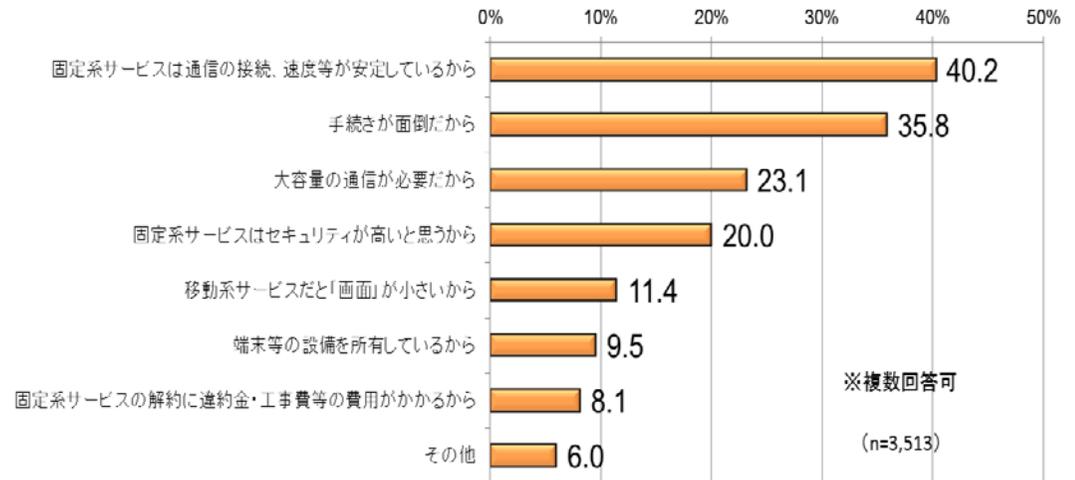
注6:auスマートバリューは、一定の条件を満たすスマートフォン等について、条件により、1台あたり最大月額2,000円引き（最大2年間）。

- 固定系 broadband サービスに対する満足度をみると、全体では「非常に満足」又は「満足」という回答の割合の合計が**55.1%**（前年度末比+5.6ポイント）と上昇している。全ての回線種別（FTTH、ADSL、CATVインターネット）で満足度が上昇している（2015年度）。
- なお、固定系通信の契約をやめない理由は、「通信の接続、速度等が安定」が**40.2%**と最多、次いで「手続きが面倒」が**35.8%**、「大容量の通信が必要」が**23.1%**となっている（2015年度）。

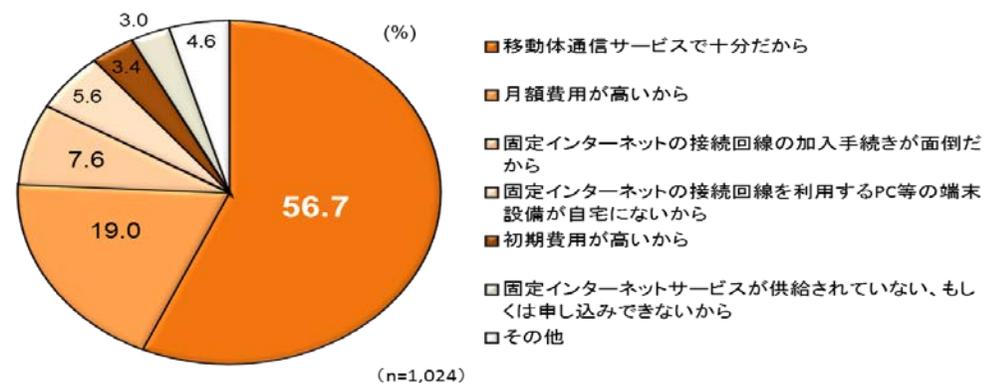
【固定系 broadband サービスに対する満足度】



(参考)【固定系通信をやめて移動系通信サービスに集約しない理由】



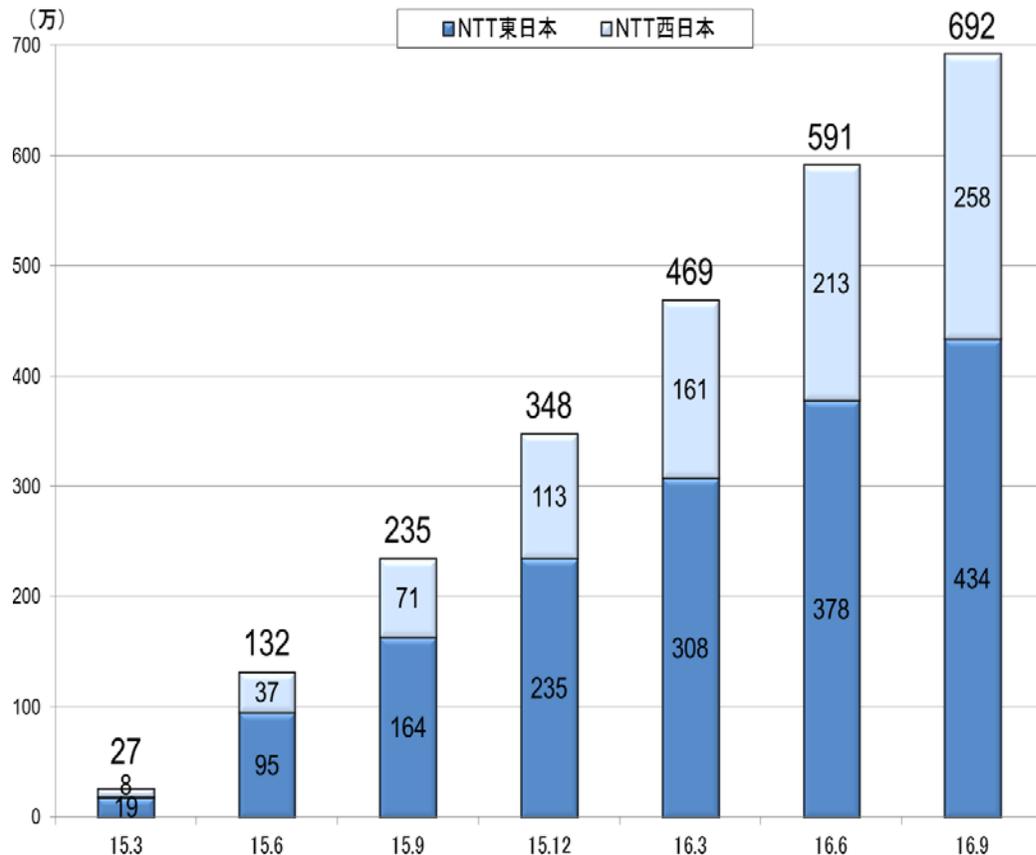
(参考)【固定系通信を利用しない理由】



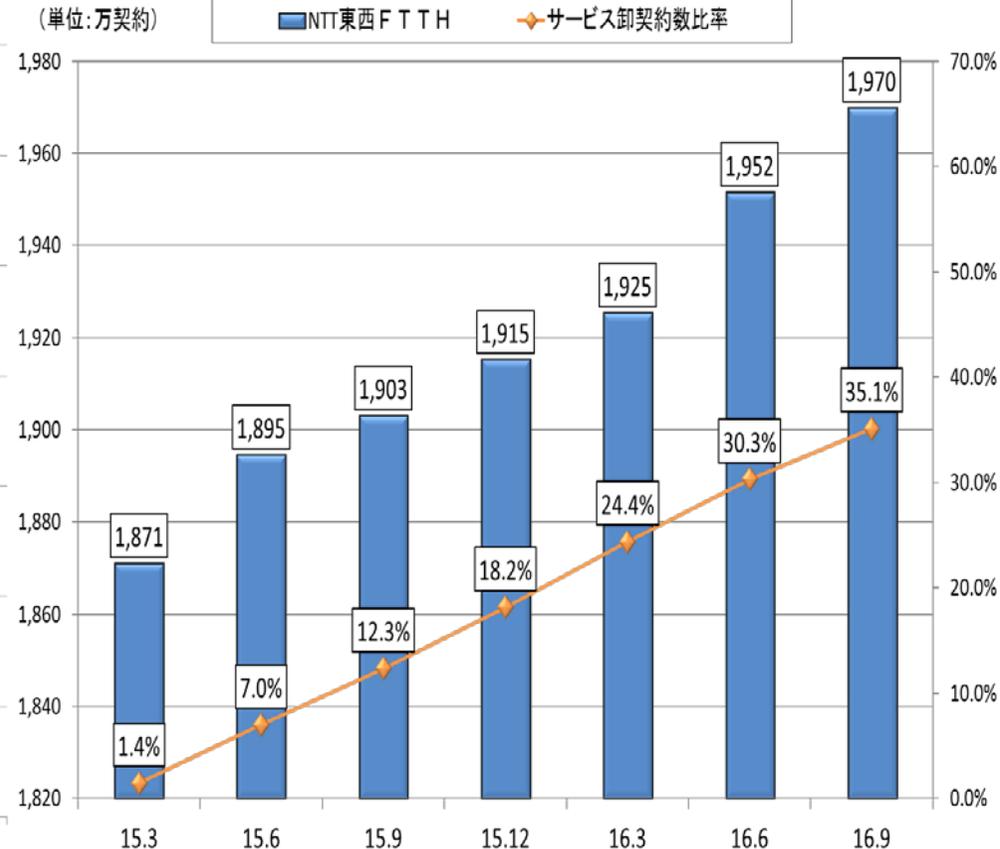
# サービス卸の卸契約数

- **サービス卸の卸契約数**はNTT東西合計で**692万**(前期比+101万、前年同期比+457万)(2016年9月末)。NTT東西別で見ると、**NTT東日本**は**434万**(前期比+56万、前年同期比+270万)、**NTT西日本**は**258万**(前期比+45万、前年同期比+187万)。
- **NTT東西のFTTH契約数**(1,970万)における**サービス卸の卸契約数の割合**は**35.1%**(前期比+4.8ポイント、前年同期比+22.8ポイント)と**増加傾向**が続いている(2016年9月末)。(参考)NTT東日本:39.6% NTT西日本:29.5%

【卸契約数(NTT東西合計別、NTT東西別)】



【NTT東西のFTTH契約数・サービス卸契約数割合】



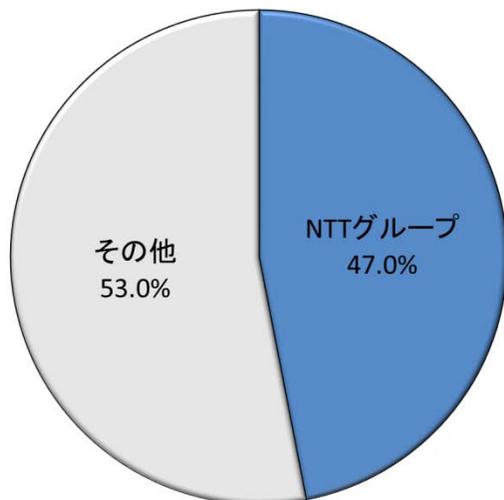
注:卸契約数は、NTT東西が2016年1月4日から開始した二段階定額メニュー(フレッツ光ライトプラス)の卸契約数を含む。

出所:「FTTHアクセスサービス等の卸電気通信役務の提供に関して対応及び報告すべき事項について(要請)」に基づくNTT東西からの報告(2015.12まで)、電気通信事業報告規則に基づくNTT東西からの報告(2016.3以降)

- サービス卸の卸契約数全体(692万)におけるNTTグループ※の卸契約数の割合は**47.0%**(前期比+1.1ポイント、前年同期比+0.8ポイント)。**4割台で推移**。
- 事業者形態別では、**MNOの卸契約数が65.5%**(前期比+1.5ポイント、前年同期比+12.0ポイント)、次いで**ISPの卸契約数が26.5%**(前期比▲1.4ポイント、前年同期比▲11.5ポイント)。**MNOの比率が継続的に高まってきている**。

※NTTドコモ、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ及びNTTぷらら

【NTTグループ】

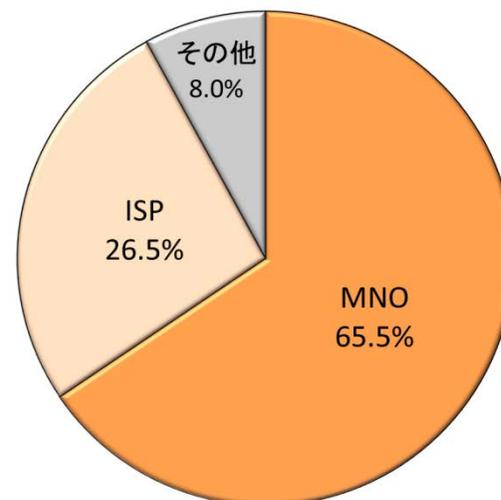


(参考)NTTグループのシェアの推移

	2015.9	2015.12	2016.3	2016.6	2016.9
NTTグループ	46.2%	44.6%	45.2%	45.8%	47.0%

注:「その他」に分類される事業者においても「NTTグループ」又は「ISP」に該当する事業者は存在する。

【事業者形態別】



(参考)MNO/ISPのシェアの推移

	2015.9	2015.12	2016.3	2016.6	2016.9
MNO	53.5%	58.0%	61.7%	64.1%	65.5%
ISP	38.0%	33.1%	30.5%	27.9%	26.5%

出所:「FTTHアクセスサービス等の卸電気通信役務の提供に関して対応及び報告すべき事項について(要請)」に基づくNTT東西からの報告(2015.12まで)、電気通信事業報告規則に基づくNTT東西からの報告及びNTT西日本提出資料(2016.3以降)に基づき作成

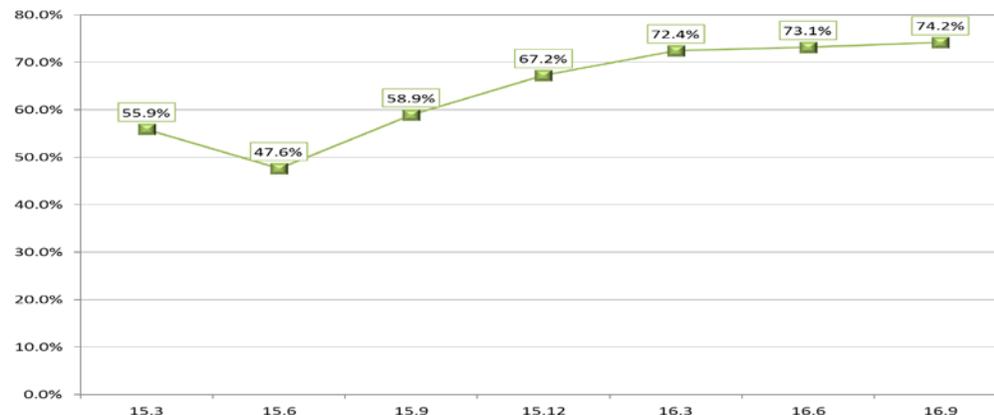
- サービス卸の卸契約数(2016年9月末)の純増数(101万、前期比▲22万、前年同期比▲2万)のうち、MNOの卸契約数の純増数は75万(前期比▲15万、前年同期比+14万)。

- サービス卸の卸契約数の純増数におけるMNOの卸契約数の純増数の割合は74.2%(前期比+1.0ポイント、前年同期比+15.3ポイント)。

【MNO卸契約数の純増数】



【サービス卸純増数におけるMNO卸契約純増数の割合】



- サービス卸の卸契約数が3万以上の卸先事業者 (13者) の卸契約数は、サービス卸の卸契約数全体の90%以上を占めている (2016年9月末)。

構成員限り

(2016年9月末現在)

	事業者名	サービス名	光回線料金	概要
MNO	NTTドコモ	ドコモ光	5,200円 (ISP料金一体型(タイプA))	<ul style="list-style-type: none"> <li>モバイルと光回線のセット販売</li> <li>モバイルとのセットで、モバイル料金を1家族当たり最大3,200円引き</li> </ul>
			5,400円 (ISP料金一体型(タイプB))	
	ソフトバンク	SoftBank光	5,200円	<ul style="list-style-type: none"> <li>モバイルや電気と光回線のセット販売</li> <li>モバイルとのセットで、モバイル料金を最大2,000円(税込)引き ※ 1家族当たり最大10回線まで適用可</li> <li>電気とのセットで、光回線料金を最大300円(税込)引き</li> </ul>
ISP	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ	OCN 光	5,100円	<ul style="list-style-type: none"> <li>ISPと光回線のパッケージ販売</li> <li>MVNOとのセットで、モバイル料金を200円引き ※ 1家族当たり最大5回線まで適用可</li> </ul>
	NTTぷらら	ぷらら光	4,800円	<ul style="list-style-type: none"> <li>ISPと光回線のパッケージ販売</li> <li>ひかりTVとのセットで、ひかりTVを1,600円引き</li> <li>MVNOとのセットで、セット料金を200円引き ※ 5回線まで適用可</li> </ul>
	インターネットイニシアティブ(IIJ)	IIJmioひかり	4,960円	<ul style="list-style-type: none"> <li>ISPと光回線のパッケージ販売</li> <li>MVNOとのセットで、光回線料金を600円引き</li> </ul>
	ソネット	So-net光 コラボレーション	4,500円	<ul style="list-style-type: none"> <li>ISPと光回線のパッケージ販売</li> <li>auスマホ等とのセットで、光回線料金を最大1,200円引き</li> </ul>
	TOKAIコミュニケーションズ	@T COMヒカリ	5,100円	<ul style="list-style-type: none"> <li>ISPと光回線のパッケージ販売</li> <li>MVNOとのセットで、モバイル料金を最大300円引き ※ 最大5回線まで適用可</li> </ul>
	ニフティ	@nifty光	4,500円	<ul style="list-style-type: none"> <li>ISPと光回線のパッケージ販売</li> <li>auスマホ等とのセットで、光回線料金を最大1,200円引き</li> </ul>
	ビッグロープ	ビッグロープ光	4,600円	<ul style="list-style-type: none"> <li>ISPと光回線のパッケージ販売</li> <li>MVNOとのセットで、セット料金を300円引き</li> <li>電気とのセットで、光回線料金を100円引き</li> </ul>
	U-NEXT	U-NEXT 光コラボレーション	4,980円	<ul style="list-style-type: none"> <li>ISPと光回線のパッケージ販売</li> <li>MVNO2回線とのセットで、セット料金を1,160円引き ※ MVNO2回線以上から割引、1家族当たり最大5回線まで適用可。 MVNO回線数に応じて割引額が変動し、5回線で4,100円引き。</li> </ul>
(参考)	NTT東日本	フレッツ 光ネクスト ファミリー・ギガラインタイプ	5,200円～	4,700円+プロバイダ料金(500円～)

注1:特段の記載がない限り、戸建て向け・ISP一体・新規回線・長期契約割引適用の場合における利用開始1年目の月額料金。

ただし、モバイル等他サービスへの加入を条件とする割引、学割等の特定の属性のユーザのみを対象とする割引、ポイント付与による実質負担額の割引等は含まない。

注2:割引額は、特段の記載がない限り、1回線当たりの額。

出所:各社ウェブサイトを基に作成

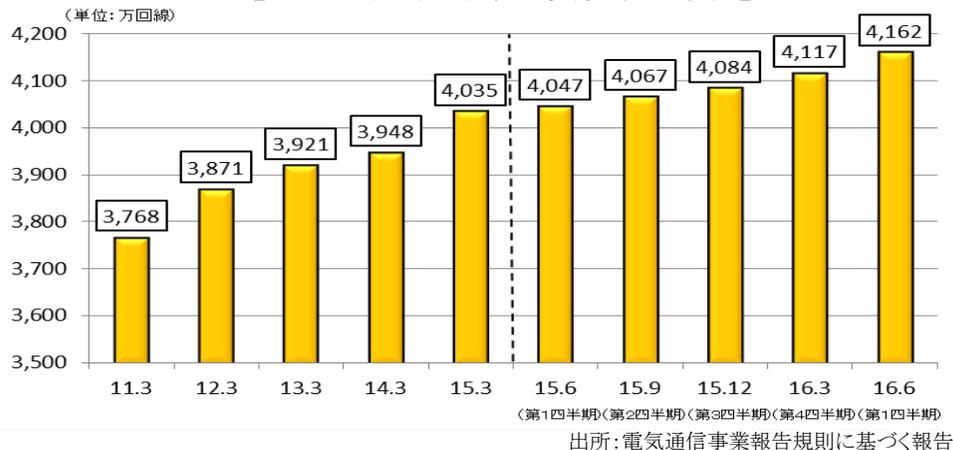
## 3. ISP市場

---

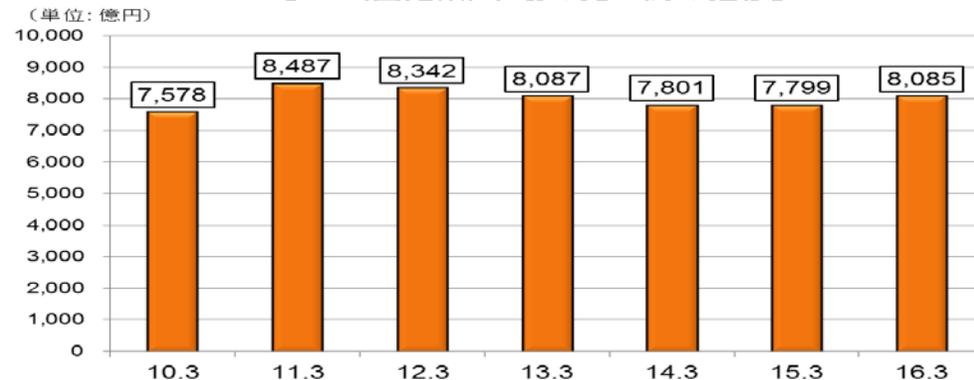
# ISP(固定系)市場の規模(契約数・売上高)及び事業者別シェア

- **ISP(固定系)市場の契約数**は**4,162万**(前期比+1.1%、前年同期比+2.8%)と**増加傾向を維持**している(2016年6月末)。
- **ISP市場における売上高**は**8,085億円**(前年度比+3.7%)と**ほぼ横ばい**で推移している(2015年度)。
- **ISP(固定系)の契約数における事業者別シェア**は、**NTT系が26.0%**(前年度末比▲1.1ポイント)、**KDDI系が19.9%**(前年度末比+0.9ポイント)、**ソフトバンク系が12.7%**(前年度末比+0.4ポイント)、**ベンダー系が23.9%**(前年度末比▲0.6ポイント)。**HHIは1,461**(前年度末比▲13)と**微減**となっている(2015年度末)。

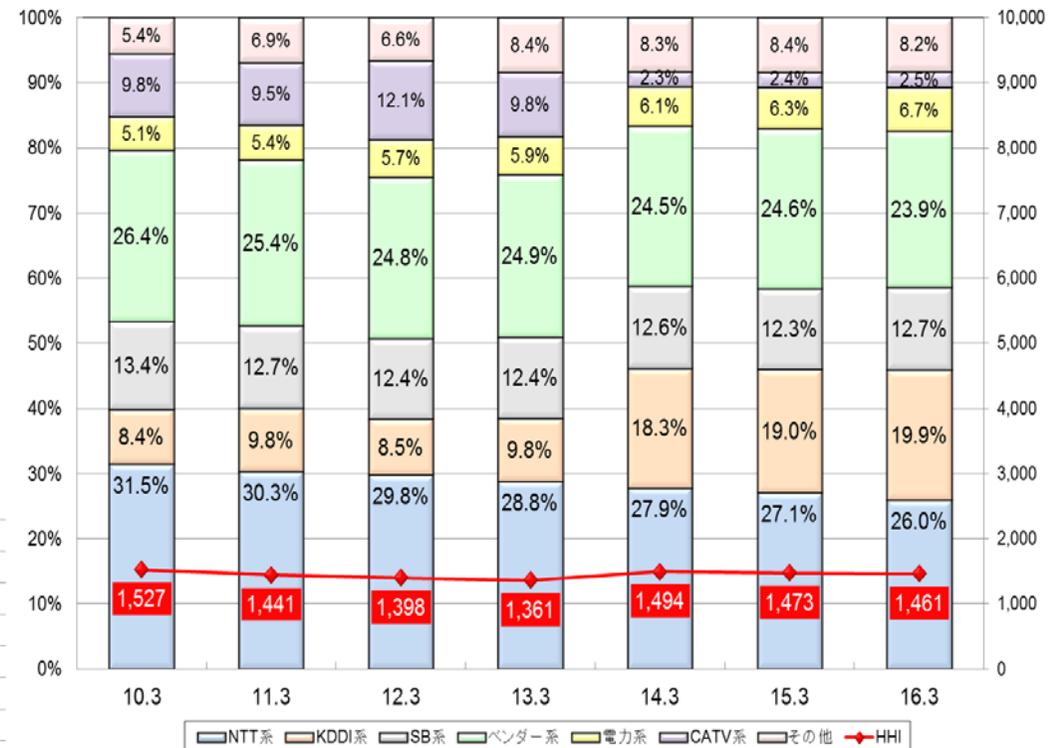
### 【ISP(固定系)市場の契約数の推移】



### 【ISP(固定系)市場の売上高の推移】



### 【ISP(固定系)市場の契約数における事業者別シェア及び市場集中度の推移】



注1: NTT系のシェアには、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ、NTTぷらら、NTTドコモ等が含まれる。

注2: KDDI系のシェアには、KDDI、中部テレコミュニケーション、J:COMグループ等が含まれる。

注3: ソフトバンク系のシェアには、旧ソフトバンクBB、旧ワイモバイル等が含まれる。

注4: ベンダー系のシェアには、ビッグロブ、ソネット、ニフティ等が含まれる。

注5: 電力系のシェアには、ケイ・オプティコム、STNet、九州通信ネットワーク等が含まれる。

## 4. 固定音声通信市場

---

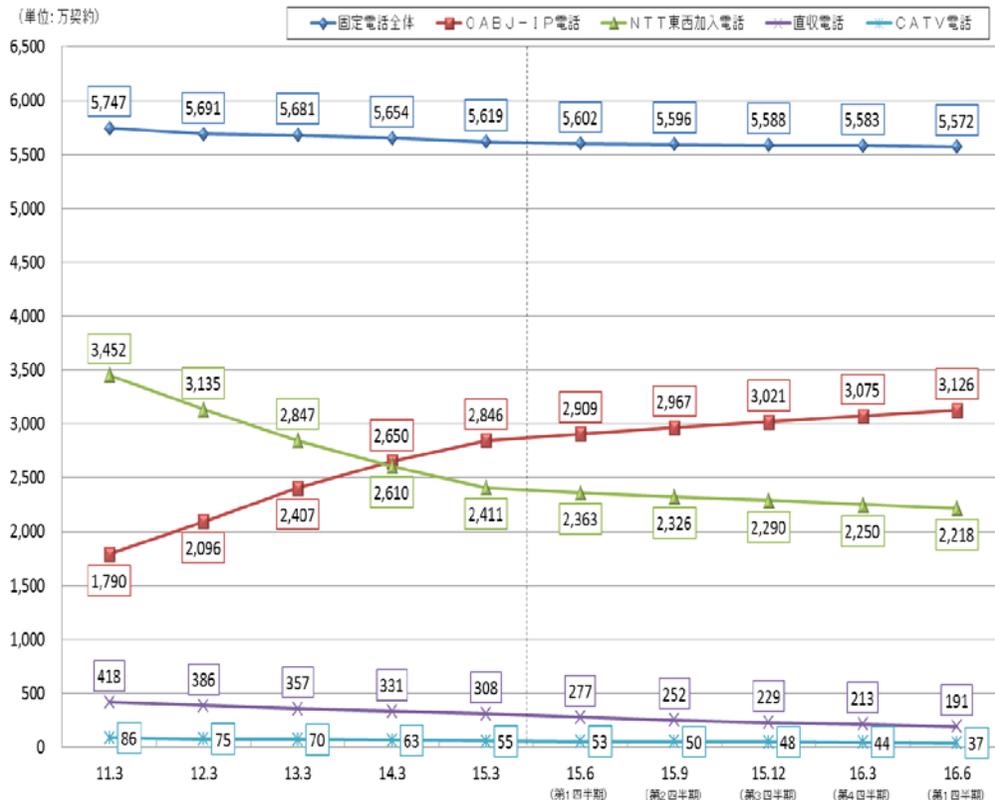
# 固定電話市場の規模(契約数・売上高)

- **固定電話※<sup>1</sup>の契約数**は**5,572万**(前期比▲0.2%、前年同期比▲0.5%) (2016年6月末)。このうち、**OABJ-IP電話**は**3,126万**(前期比+1.7%、前年同期比+7.5%)、**NTT東西加入電話**は**2,218万**(前期比▲1.4%、前年同期比▲6.1%)。
- **OABJ-IP以外※<sup>2</sup>の契約数**は**2,446万**(前期比▲2.5%、前年同期比▲9.2%) (2016年6月末)。
- **固定電話市場における売上高**は**1兆5,170億円**(前年度比▲5.5%)と減少傾向となっている(2015年度)。

※1 NTT東西加入電話(ISDNを含む。)、直収電話(直加入、新型直収、直収ISDNの合計)、OABJ-IP電話及びCATV電話を指す。以下同じ。

※2 NTT東西加入電話(ISDNを含む。)、直収電話(直加入、新型直収、直収ISDNの合計)及びCATV電話を指す。

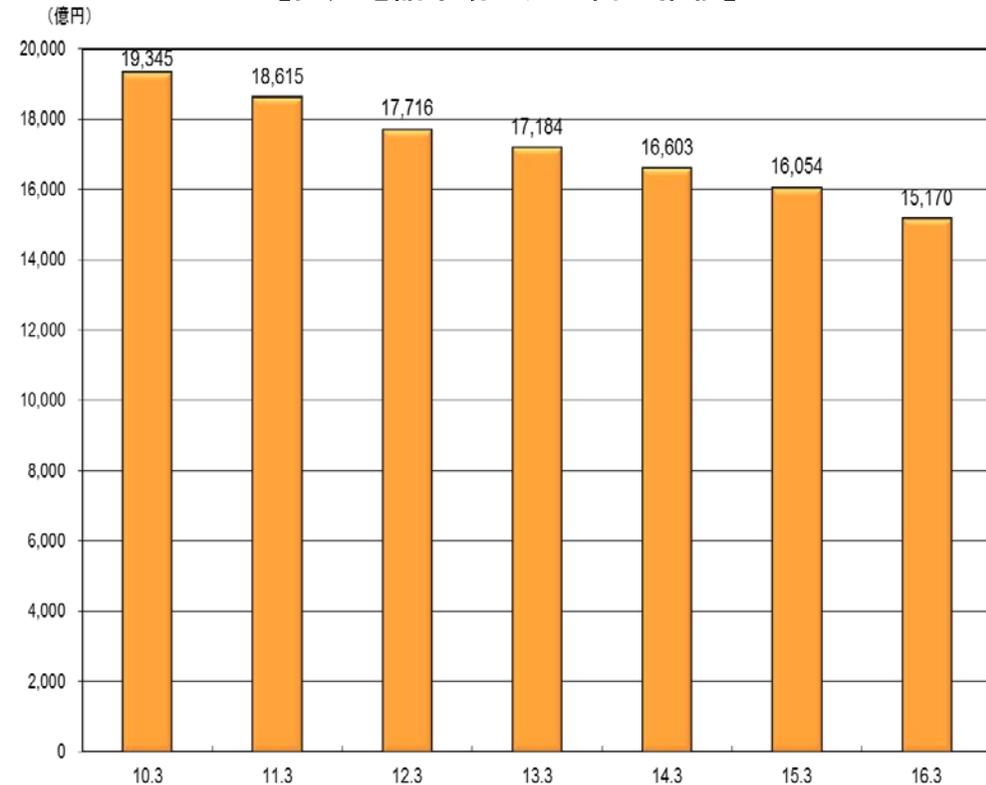
## 【固定電話の契約数の推移】



注1:「OABJ-IP電話」は、利用番号数をもって契約数と見なしている。なお、OABJ-IP電話はNTT東西加入電話等との代替性が高いため固定電話に加えている。

注2:「CATV電話」は、CATV事業者が提供する固定電話サービスのうちアナログ電話を計上している。なお、CATV事業者が提供するIP電話については「OABJ-IP電話」に計上している。

## 【固定電話市場の売上高の推移】

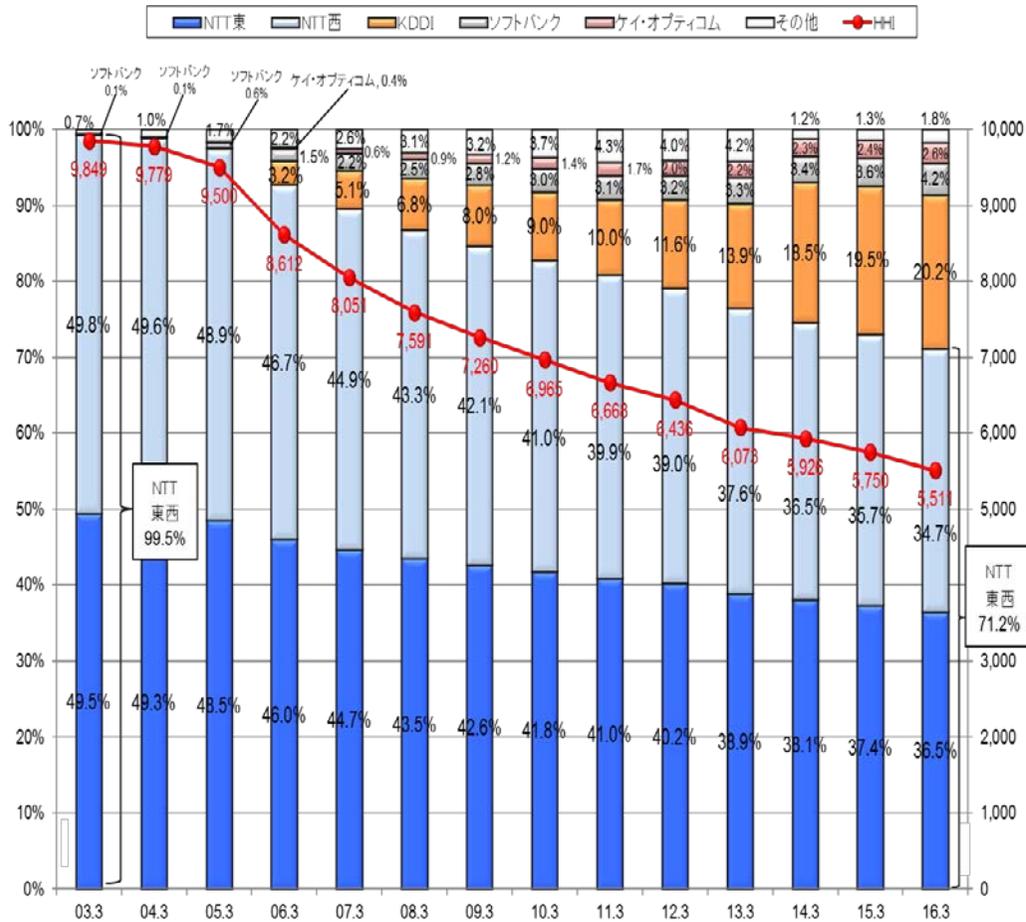


注: 売上高の一部については、公表されている事業者のARPU及び契約数から推計している。

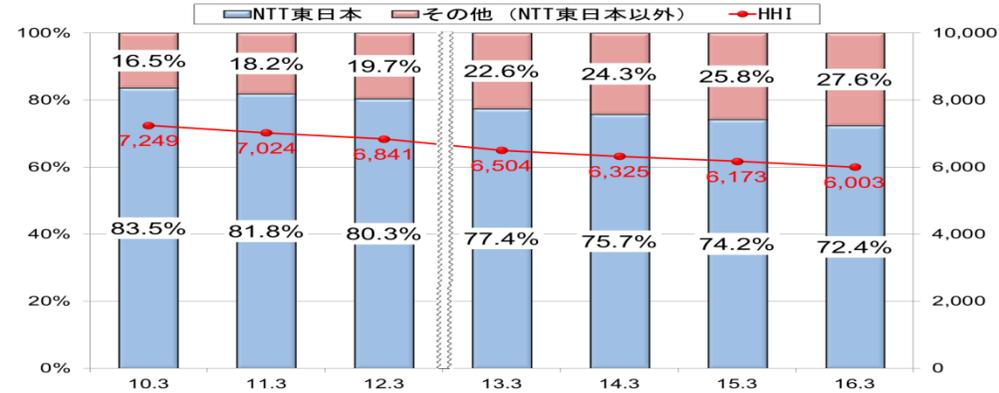
# 固定電話の契約数における事業者別シェア等

- 固定電話の契約数における事業者別シェアは、NTT東西が71.2%（前年度末比▲1.9ポイント）、KDDIが20.2%（前年度末比+0.7ポイント）、ソフトバンクが4.2%（前年度末比+0.6ポイント）。HHIは5,511（前年度末比▲239）と減少傾向となっている（2015年度末）。
- 東西別にみると、東日本地域はNTT東日本が72.4%（前年度末比▲1.8ポイント）、西日本地域はNTT西日本が70.1%（前年度末比▲2.0ポイント）となっている（2015年度末）。HHIは、東日本地域が6,003（前年度末比▲170）、西日本地域が5,805（前年度末比▲166）となっている。

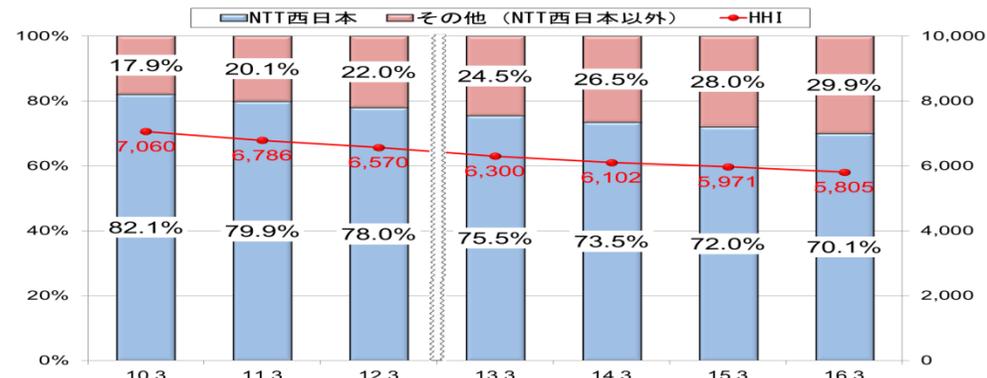
【固定電話の契約数における事業者別シェア及び市場集中度の推移】



【東日本地域】



【西日本地域】



注：東西別の契約数算定に当たっては、12.3以前の数値については推計値(※)を、13.3以降は電気通信事業報告規則に基づく報告値を用いている。  
 (※ NTT東西加入電話、直取電話、CATV電話については、電気通信事業報告規則に基づく報告値を、0ABJ-IP電話については、NTT東西の数値は同報告規則に基づく報告値を、NTT東西以外の事業者の数値は、2011事業者アンケート結果に基づく推計値を用いている。)

注：KDDIには、J:COM(2013年度以降)が含まれる。

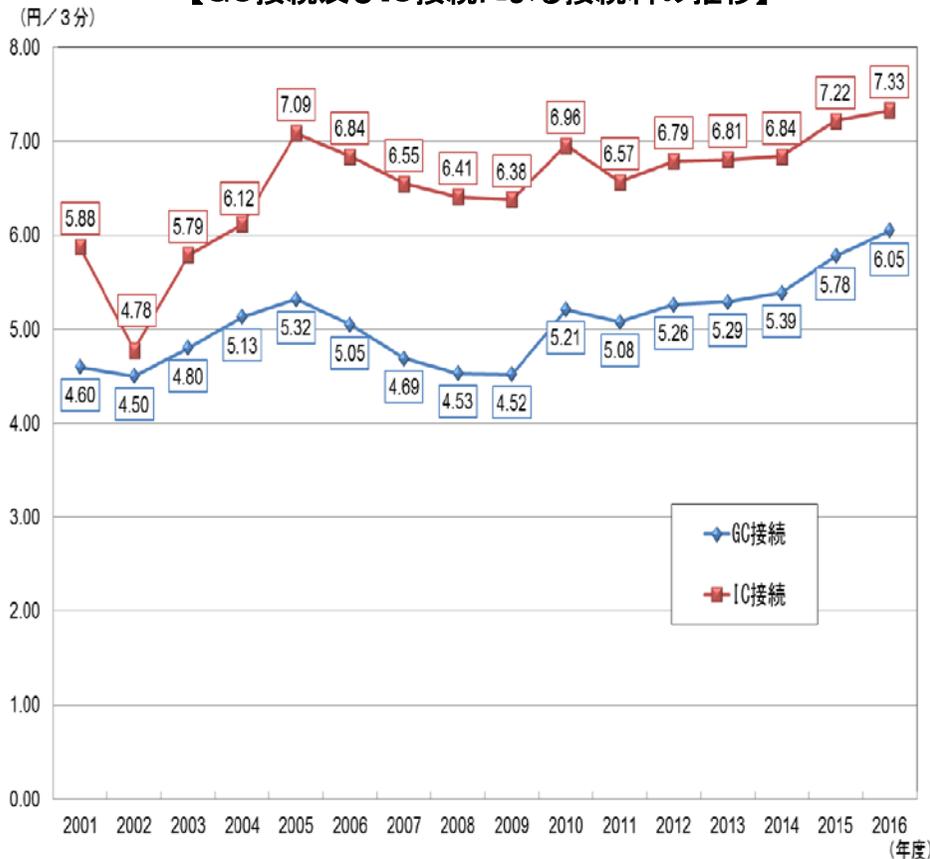
# 固定電話に係る接続料の推移

- NTT東西のGC接続※<sup>1</sup>又はIC接続※<sup>2</sup>による接続料は、2006年度以降低下傾向にあったが、2012年度以降は上昇傾向となっている。
- NTT東西のメタル加入者回線の接続料は、2014年度及び2015年度は低下していたが、2016年度は上昇に転じている。

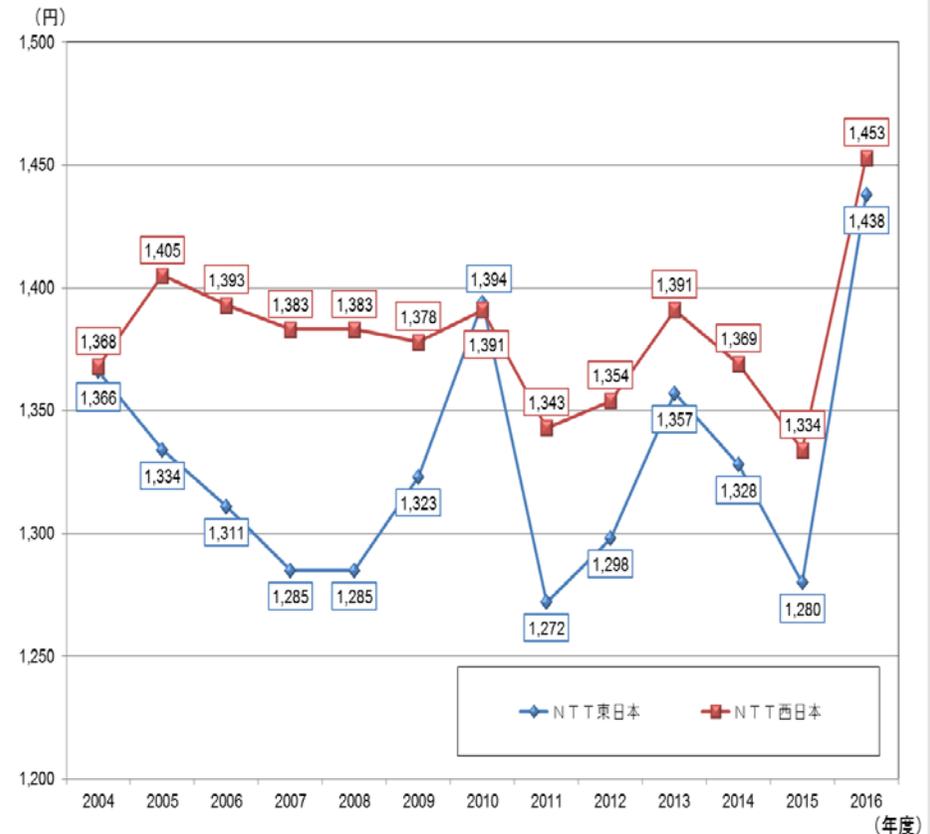
※1 Group Unit Center (加入者交換局) 接続の略。NTT東西以外の事業者が、NTT東西のネットワークと加入者交換局レベルで相互接続することを指す。

※2 Intra-zone Center (中継交換局) 接続の略。NTT東西以外の事業者がNTT東西のネットワークと中継交換局レベルで相互接続すること。  
中継交換局とは、GCから回線を集約し、他局に中継している局のこと。

## 【GC接続及びIC接続による接続料の推移】



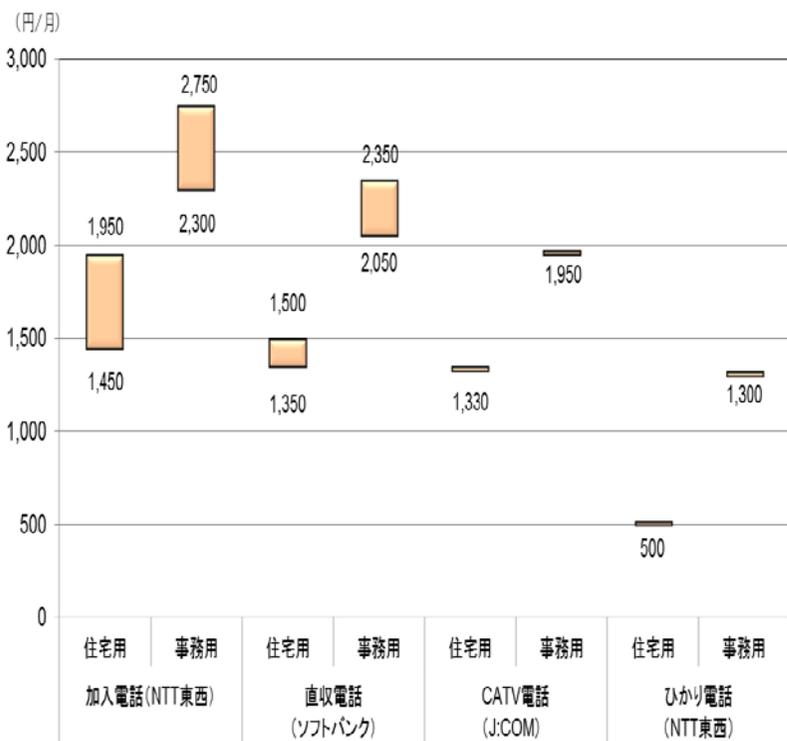
## 【メタル加入者回線(ドライカップ)の接続料の推移】



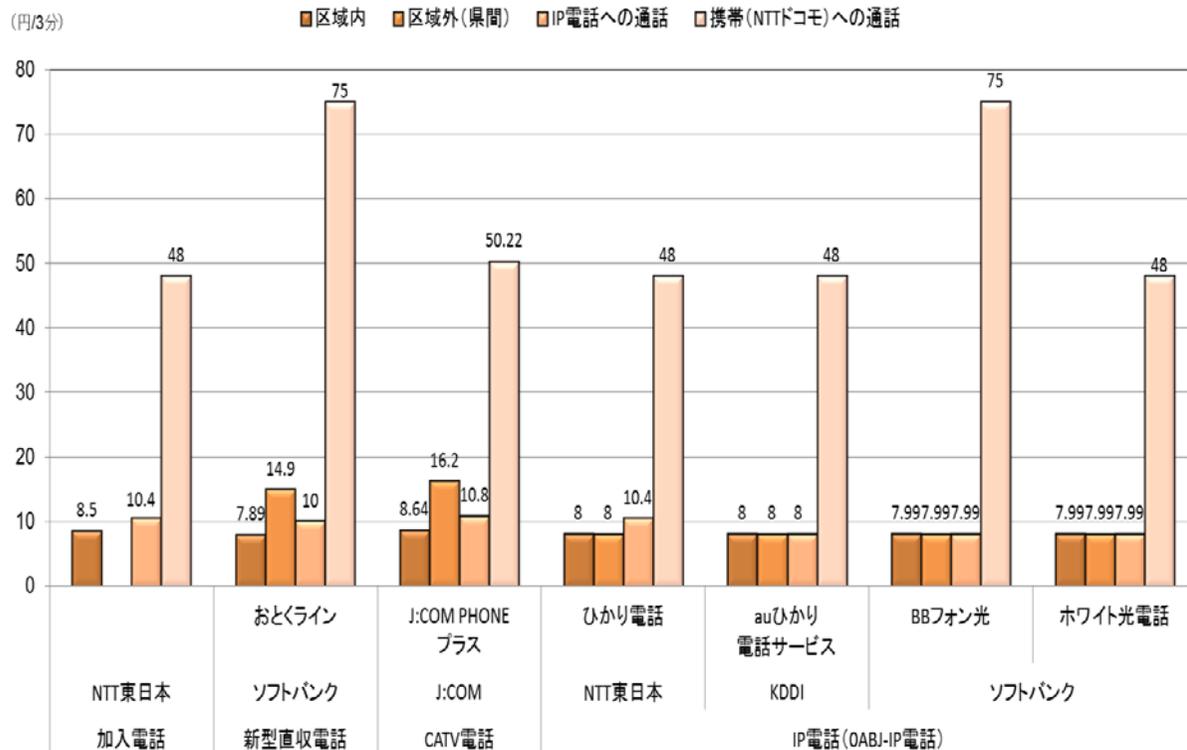
注: 回線管理運営費を含む。

- 固定電話サービスの基本料は、NTT東西加入電話及び直収電話の場合、使用目的(住宅用・事務用)や電話サービス取扱所(級局)の種類によって異なる料金が設定されているが、CATV電話やOABJ-IP電話については級局による区分は設けられておらず、全国一律の料金設定となっている。
- 固定電話サービスの通話料は、距離区分(県内・県間等)及び着信先(固定・携帯電話・IP電話等)に応じて料金が設定されているが、OABJ-IP電話においては、国内の距離区分は設けられていない。

【主な固定電話サービスの基本料】



【主な固定電話サービスの通話料】



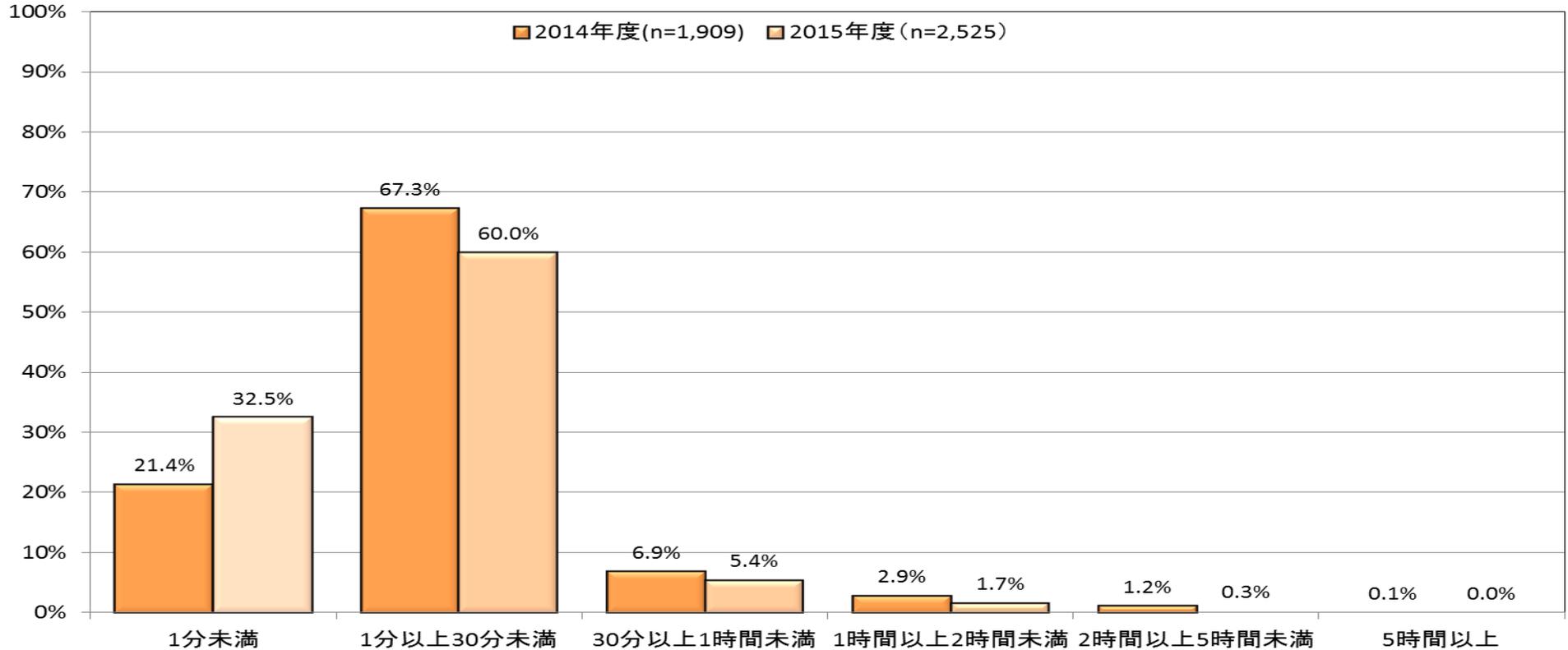
注1: 2016年9月末現在。

注2: NTT東西の提供するひかり電話については、原則フレッツ光等の光アクセス回線 (FTTH) の契約が必要であり、他のサービスとの比較には注意を要する。

注: 表は住宅用の料金、2016年9月末現在。

- 2015年度の固定電話の1週間当たりの通話利用時間は、1分未満の利用者が約3割を占め、30分未満の利用者で9割超を占めており、前年度と比べて**減少**している。

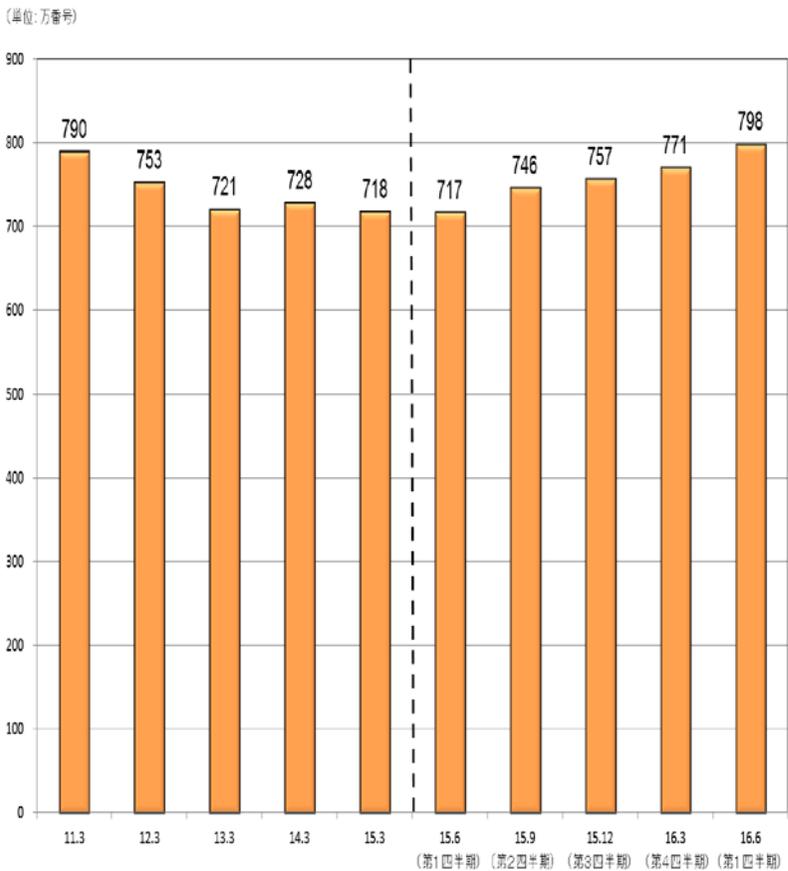
【固定電話の1週間当たりの通話利用時間】



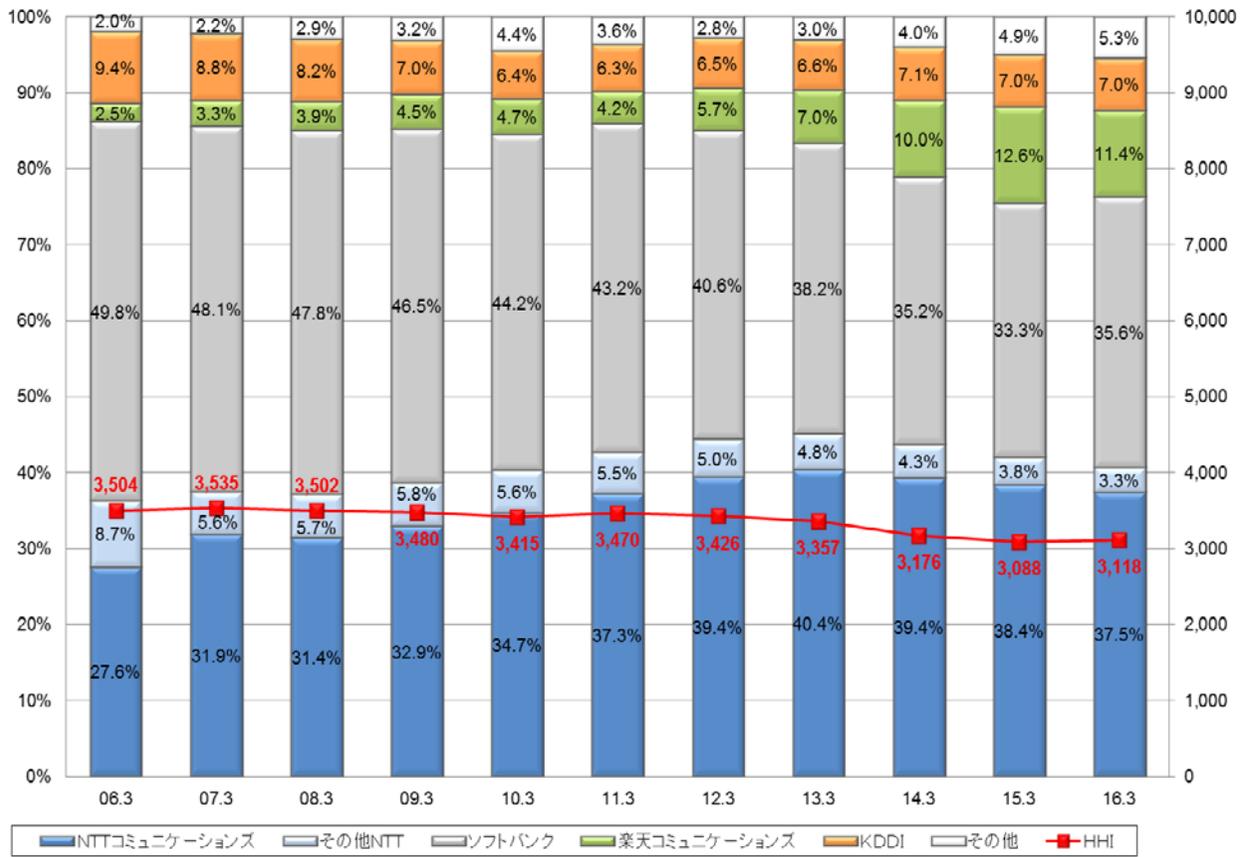
# 050-IP電話市場の規模(利用番号数)及び事業者別シェア等

- 050-IP電話の利用番号数は**798万**(前期比+3.6%、前年同期比+11.4%)となっている(2016年6月末)。
- 050-IP電話の利用番号数における事業者別シェアは、**NTTコミュニケーションズが37.5%**(前年度末比▲0.9ポイント)、**ソフトバンクが35.6%**(前年度末比+2.3ポイント)、**楽天コミュニケーションズが11.4%**(前年度末比▲1.2ポイント)、**KDDIが7.0%**(前年度末比±0ポイント)となっている(2015年度末)。**HHIは3,118**(前年度末比+30)と**微増**となっている。

【050-IP電話の利用番号数の推移】



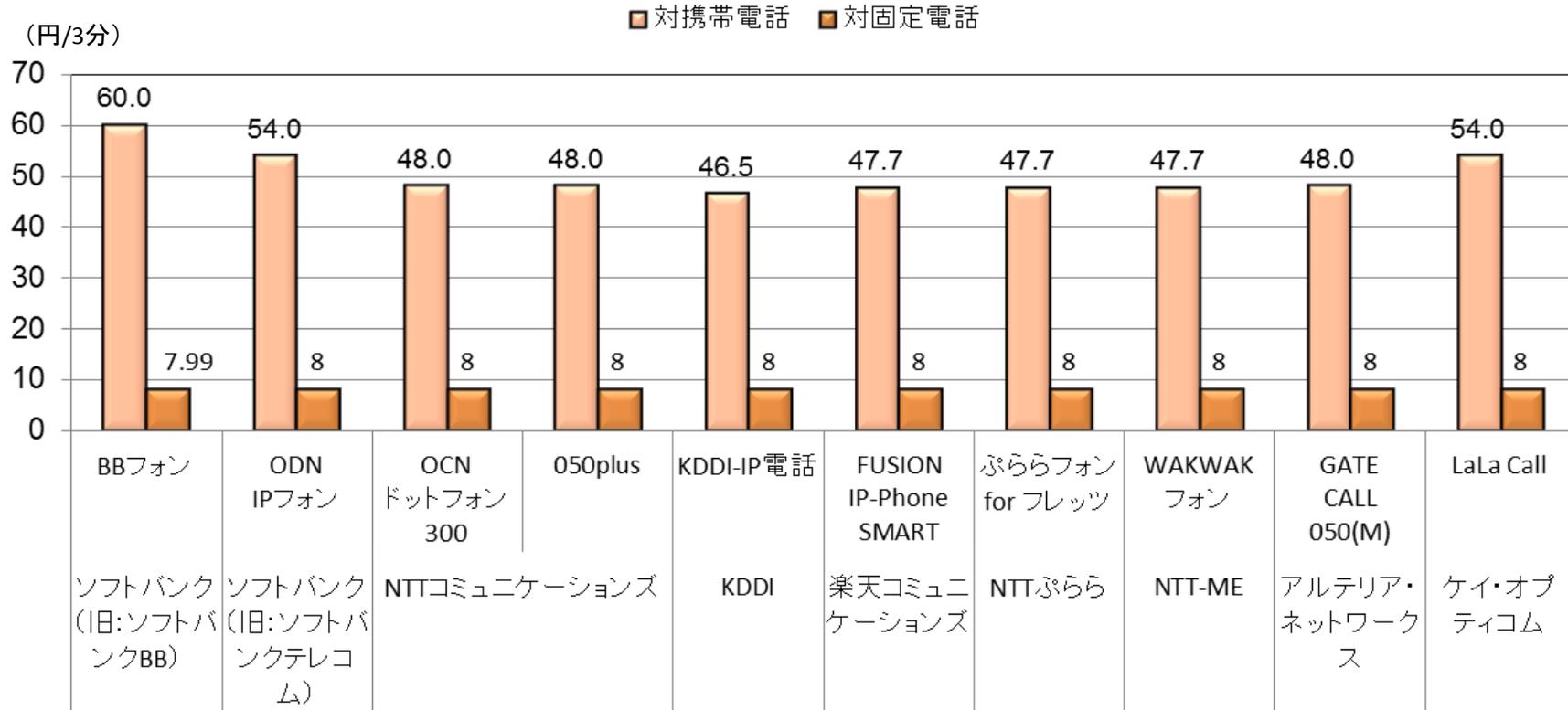
【050-IP電話の利用番号数における事業者別シェア及び市場集中度の推移】



注1: その他NTTには、NTTぷらら、NTT-ME、NTTネオメイト、NTTPCコミュニケーションズ、NTTDコモが含まれる。  
 注2: KDDIには、CTC(2008年第4四半期以降)が含まれる。

- **050-IP電話の通話料**は、**ほぼ横並び**の状況。
- なお、自網内通話及びIP-IP接続を行っている050-IP電話事業者が提供するサービスの利用者との通話においては、NTT東西のPSTN交換機を介する必要がないことから、**無料通話**が可能となっている。

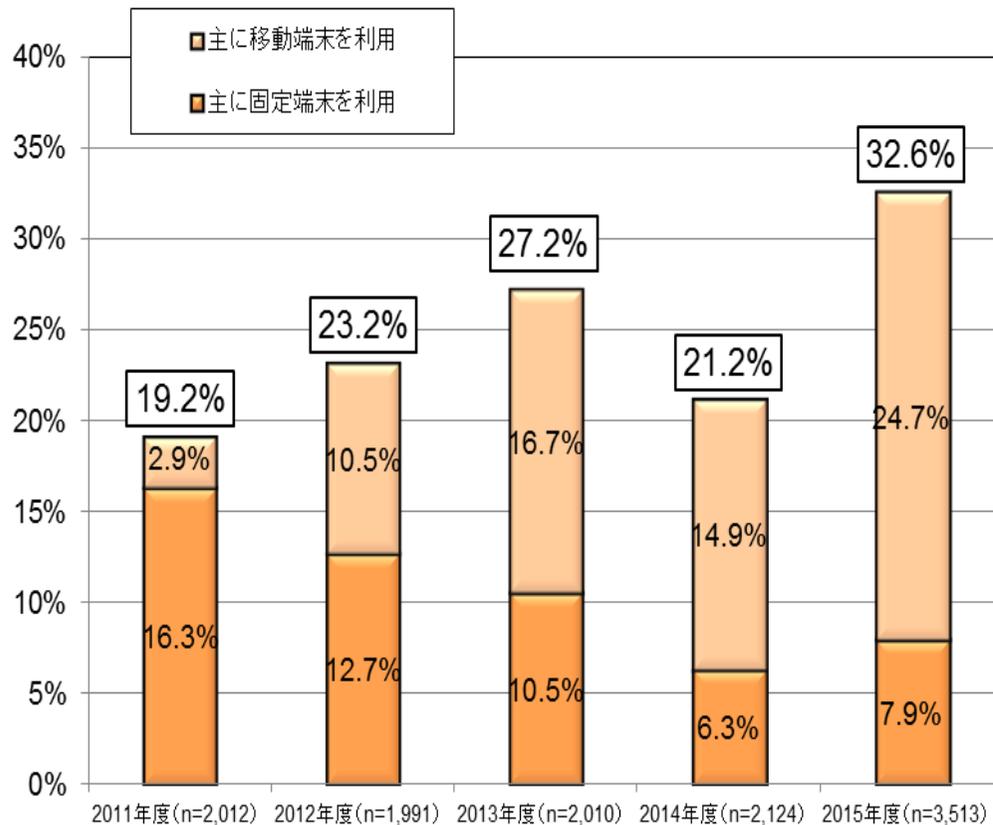
【主な050-IP電話サービスの通話料(対携帯電話及び対固定電話との比較)】



- ソフトフォン※サービスの利用率は、近年増加傾向にあり、直近では回答者全体の**32.6%**(前年度比+11.4ポイント)となっている(2015年度)。
- 一週間当たり平均通話時間を比較すると、直近ではソフトフォンが**24.8分**(前年度比+67.7%)、固定電話が**16.8分**(前年度比▲2.5%)、携帯電話が**26.1分**(前年度比+5.5%)と、ソフトフォンの利用時間が増加傾向にある。

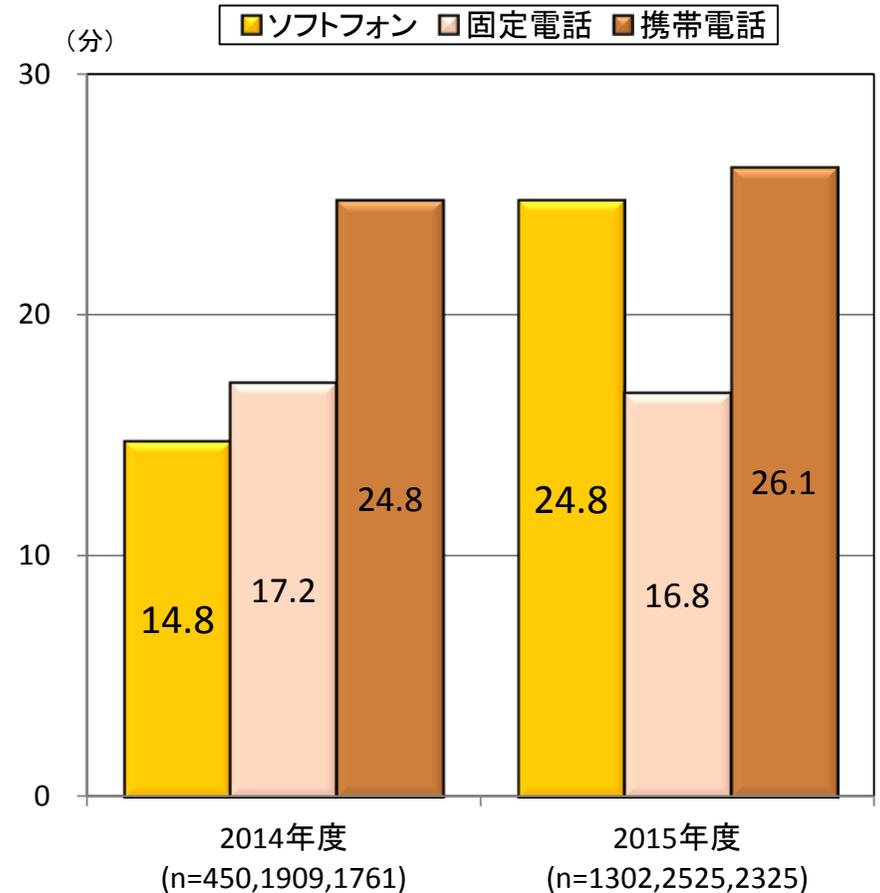
※ 電話番号を使用せず、電話としての機能を実現するソフトウェア

### 【ソフトフォンサービスの利用率の推移】



出所: 2011~2015利用者アンケート

### 【ソフトフォン・固定電話・携帯電話利用者の一週間当たり平均通話時間】



出所: 2014・2015利用者アンケート